

II. 調查結果

Ⅱ. 調査結果

1. 「住みやすさ」に関する調査結果の統括

福岡市は、市民100人のうち、

97人が「福岡市のことが好き」で

96人が「福岡市は住みやすい」と感じ

93人が「福岡市にずっと住み続けたい」と願い

78人が「福岡市民や訪問者のために何か役に立ちたい」と思っている。

福岡市民は、福岡市に暮らす人たちのことが好き。
だから、私たちが暮らしている福岡市のことも大好き。
そして、福岡市を訪れてくれた方々を、大切にもてなしたい。

福岡市は「市民の愛着と誇りに満ちた住みよい都市」です。

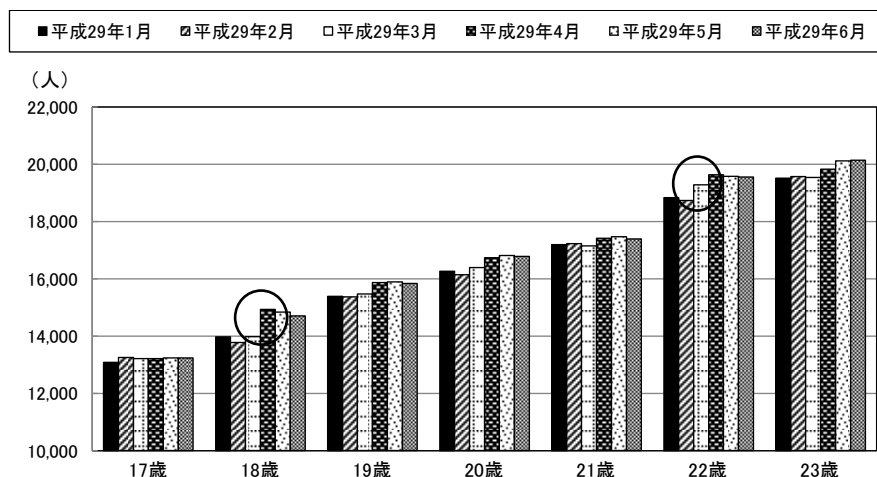
(1) 総括分析の視点：調査対象年齢の変更（20歳以上→18歳以上）に伴う分析視点

本意識調査では、これまで調査対象を20歳以上としてきたが、今年度より18歳以上に変更した。これは、選挙権が18歳以上に引き下げられたことに伴ってのことである。

この変更によって、「好き」「住みやすい」「ずっと住み続けたい」「福岡市民や訪問者のために何か役に立ちたい」といった、これまで経年変化をみてきた主要指標については、従来と今年度の調査対象年齢が微妙に異なるという前提に立った、丁寧な比較分析が求められる。そこで、経年比較を行う場合は、従来通りの20歳以上(2,417名)を対象とする調査結果を抽出比較する。また、指標によっては、18・19歳(33名)、18～22歳(80名)、さらに18～22歳学生(50名)の結果を取り出し、若者意識について詳細な分析を試みる。

今回、対象を拡大したことで、福岡市人口構成にみる特徴的なボリュームゾーンである18～22歳学生の回答を、少ないながらも50名獲得することができた。福岡市は、大学や新卒採用を行う企業も多いため進学や就職に伴う、18歳と22歳を契機とする流入流出が多い(図表1)都市と考えられている。福岡市の持続的な発展のためには、若者を引き付ける街であり続けることは必要条件といえる。このような理由から、今回は若者に焦点を当てた総括分析を行う。

図表1 福岡市住民基本台帳登録人口年齢別月別推移【平成29年1月～6月、17～23歳】



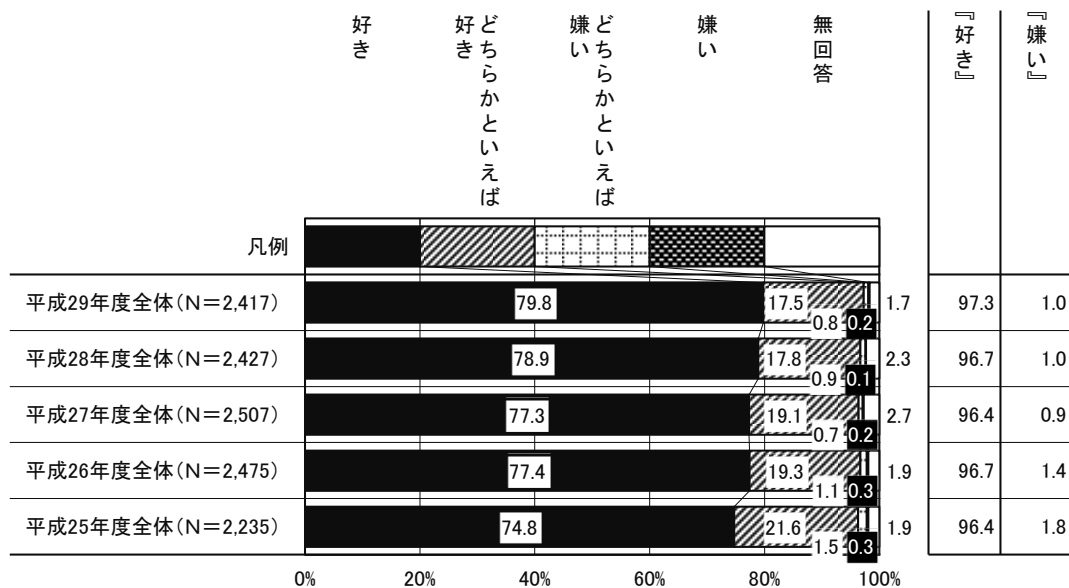
(2) 福岡市の暮らしに関する「4指標」の推移

本意識調査では、「福岡市が好きか」「福岡市が住みやすいか」「福岡市に住み続けたいか」「福岡市民や訪問者のために（平成27年度までは、「福岡市のために」）何か役に立ちたいか」という4つの質問を毎年行い、その回答状況および経年推移を観察、分析している。その4つの結果指標（以下4指標）の推移と特徴について、まずは述べる。

「福岡市が好きか」の質問は、平成23年の調査から開始したものだが、7回目の今年も、97.4%が『好き（「どちらかといえば好き」を含む）』と回答し、過去最高を記録した。

次の経年推移は、これまで同様20歳以上の回答を抽出して比較したものである。20歳以上でも97.3%が、『好き（「どちらかといえば好き」を含む）』と回答した。つまり、18・19歳が加わったことによって、「好き」な割合が0.1ポイント上昇したことがわかる。

図表2 福岡市が好きかどうか【過去の調査との比較】（20歳以上）

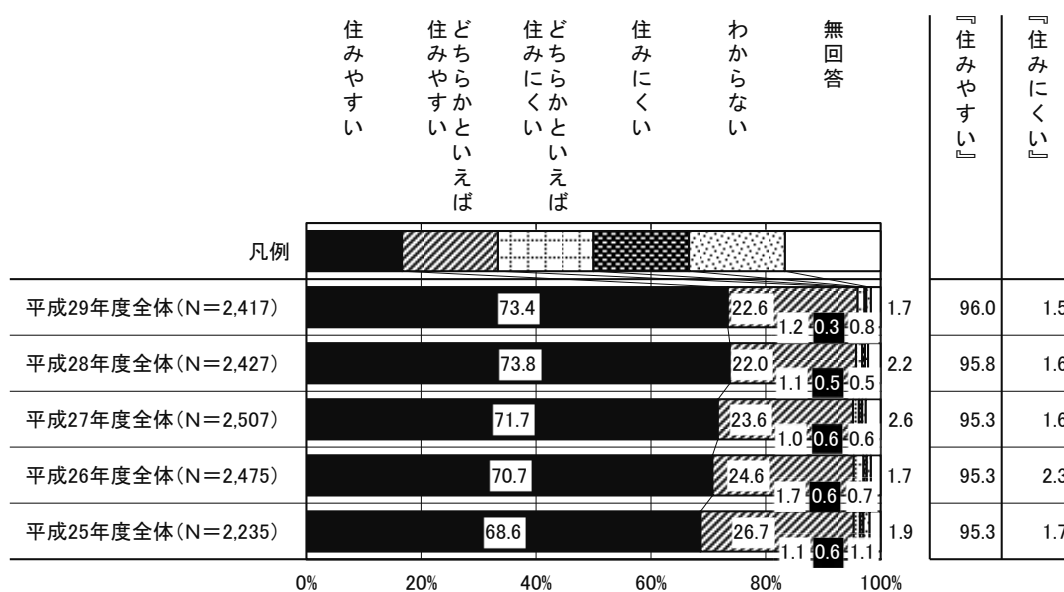


また、福岡市は、「福岡市のことを住みやすい」と思っている人が多い都市でもある。

『住みやすい（「どちらかといえば住みやすい」を含む）』と回答した人は、96.0%であり、これも過去最高を記録した。

次の経年推移は、これまで同様 20 歳以上の回答を抽出して比較したものである。過去の調査と比較すると、「住みやすい」という積極的な回答を行っている人は、これまで毎年少しずつ増加し続けてきたが、今年度はやや減少に転じている。だが、0.4 ポイント減と誤差の範囲といえる。

図表 3 総合的な福岡市の住みやすさ【過去の調査との比較】(20 歳以上)

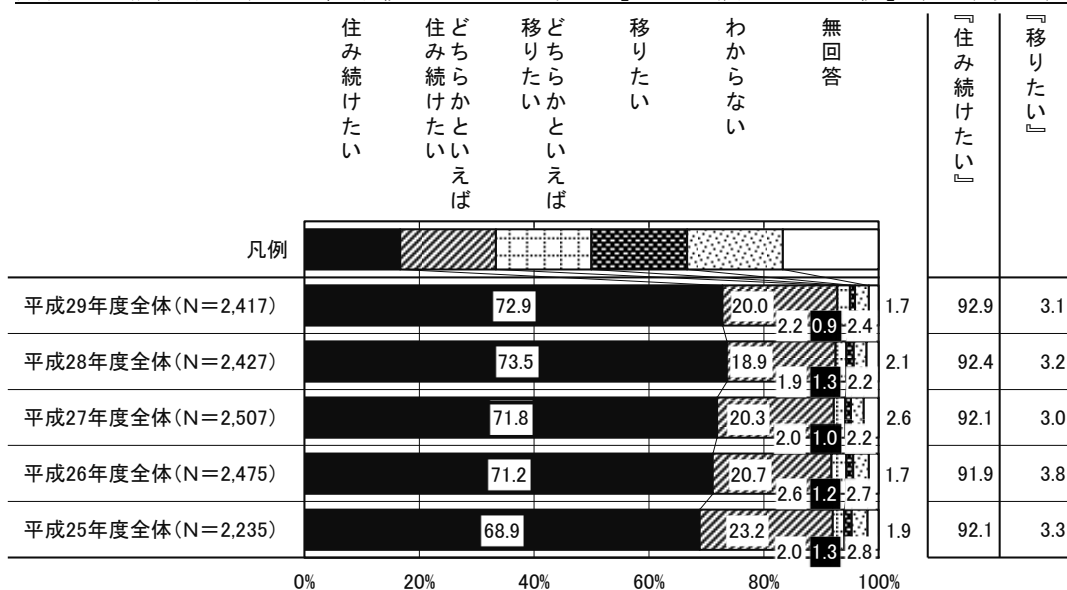


さらに、福岡市は、「福岡市に住み続けたい」と思っている人が多い都市でもある。

『住み続けたい（「どちらかといえば住み続けたい」を含む）』と回答した人は、92.8%であり、この項目も過去最高を記録した。

次の経年推移は、これまで同様 20 歳以上の回答を抽出して比較したものである。過去の調査と比較すると、「住みやすい」「住み続けたい」という積極的な回答を行っている人は、これまで毎年少しずつ増加し続けてきたが、今年度は、やや減少に転じた。これには、18・19 歳に対象拡大した影響が垣間見られる。

図表 4 福岡市にずっと住み続けたいと思うか【過去の調査との比較】(20 歳以上)



今回、若者を抽出して分析することによって、これまであまり可視化されていなかった問題が浮かび上がってきた。

若者に焦点を当てると、18・19 歳、18～22 歳、18～22 歳学生の回答は、図表 5 のように整理できる。積極的な「住み続けたい」の回答は 18・19 歳では 66.7%と高い割合を示しているが、18～22 歳に年代を広げると 51.3%，さらに、これから就職をしようという 18～22 歳の学生になると 48.0%にまで低くなる。「住み続けたい」の回答は、年齢層が上がるにつれて高くなるが、18 歳から 22 歳の間には逆転現象が起きている。この時期に、「住み続けること」→「働きながら自分で生計を立てて住み続けること」という現実的な思考に、特に学生の場合は軌道修正されるからではないか。

図表 5 若者における『福岡市にずっと住み続けたいと思うか』の状況
(20 歳以上, 18・19 歳, 18～22 歳, 18～22 歳学生)

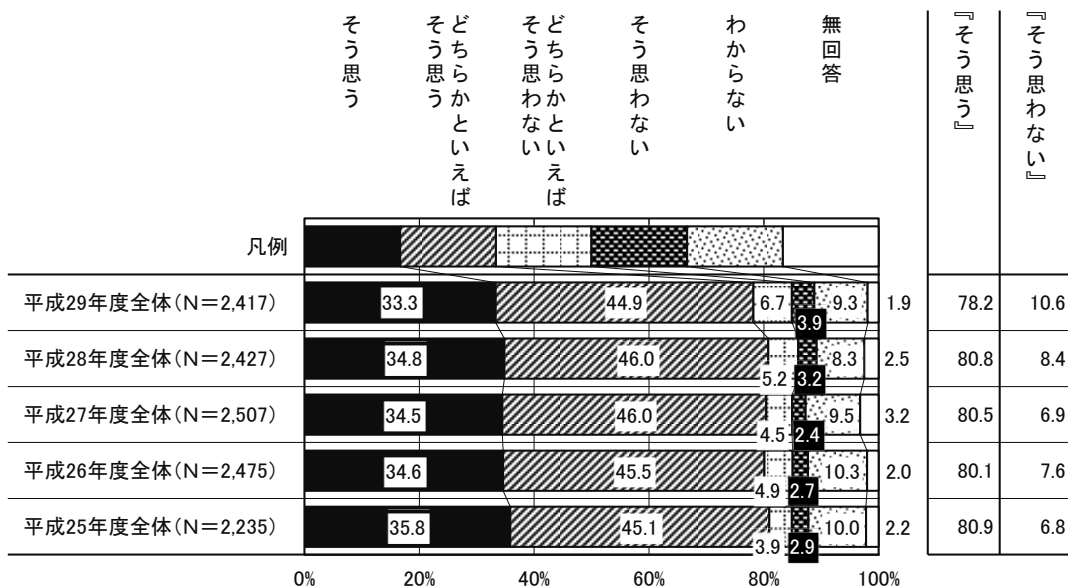
調査数	単位：%								
	住み続けたい	どちらかといえば住み続けたい	どちらかといえば移りたい	移りたい	わからない	無回答	『住み続けたい』	『移りたい』	
20歳以上	2,417	72.9	20.0	2.2	0.9	2.4	1.7	92.9	3.1
18・19歳	33	66.7	21.2	-	-	12.1	-	87.9	-
18～22歳	80	51.3	33.8	1.3	2.5	10.0	1.3	85.1	3.8
学生	50	48.0	30.0	2.0	2.0	16.0	2.0	78.0	4.0
学生以外	30	56.7	40.0	-	3.3	-	-	96.7	3.3

「福岡市民や訪問者のために何か役に立ちたいか」という質問は、今年で7回目を迎える。平成28年度からは文言表現を若干変更し、「福岡市のために何か役に立ちたいか」を「福岡市民や訪問者のために何か役に立ちたいか」として実施している。

『そう思う』(=「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)と回答した人は、78.2%であり、過去に比べると微減となった。図表6の経年推移は、これまで同様20歳以上の回答を抽出して比較したものである。

これも対象を拡大した影響が見られる。18・19歳では、『そう思う』の回答は、75.8%だった。だが、図表7に示すように、実は、18～22歳の「そう思う」割合の低さと「わからない」の高さが影響を与えた可能性が大きい。特に、18～22歳学生の積極的な「そう思う」の低さは、これからの社会の担い手であることを考えると、課題といえる。

図表6 福岡市民や訪問者のために何か役に立ちたいと思うか
【過去の調査との比較】(20歳以上)



※ 平成23年度から27年度の設定は「あなたは、福岡市のために何か役に立ちたいと思いますか」

図表7 若者における『福岡市民や訪問者のために何か役に立ちたいと思うか』の状況
(20歳以上, 18・19歳, 18～22歳, 18～22歳学生)

単位：%

	調査数	そう思う	どちらかといえば	どちらかといえ	そう思わない	わからない	無回答	『そう思う』	『そう思わない』
20歳以上	2,417	33.3	44.9	6.7	3.9	9.3	1.9	78.2	10.6
18・19歳	33	30.3	45.5	15.2	3.0	6.1	-	75.8	18.2
18～22歳	80	20.0	46.3	12.5	6.3	15.0	-	66.3	18.8
学生	50	18.0	56.0	12.0	4.0	10.0	-	74.0	16.0
学生以外	30	23.3	30.0	13.3	10.0	23.3	-	53.3	23.3

さて、「好き」「住みやすい」「住み続けたい」の傾向とは異なり、「何か役に立ちたいか」は、積極的な「そう思う」の回答が「どちらかといえばそう思う」を下回っている。これも、過去同様の傾向である。この理由や「そう思う」と回答する人を増やしていくための方策について、具体的に検討してみることも大切であろう。

(3) 福岡市の都市環境等の満足度

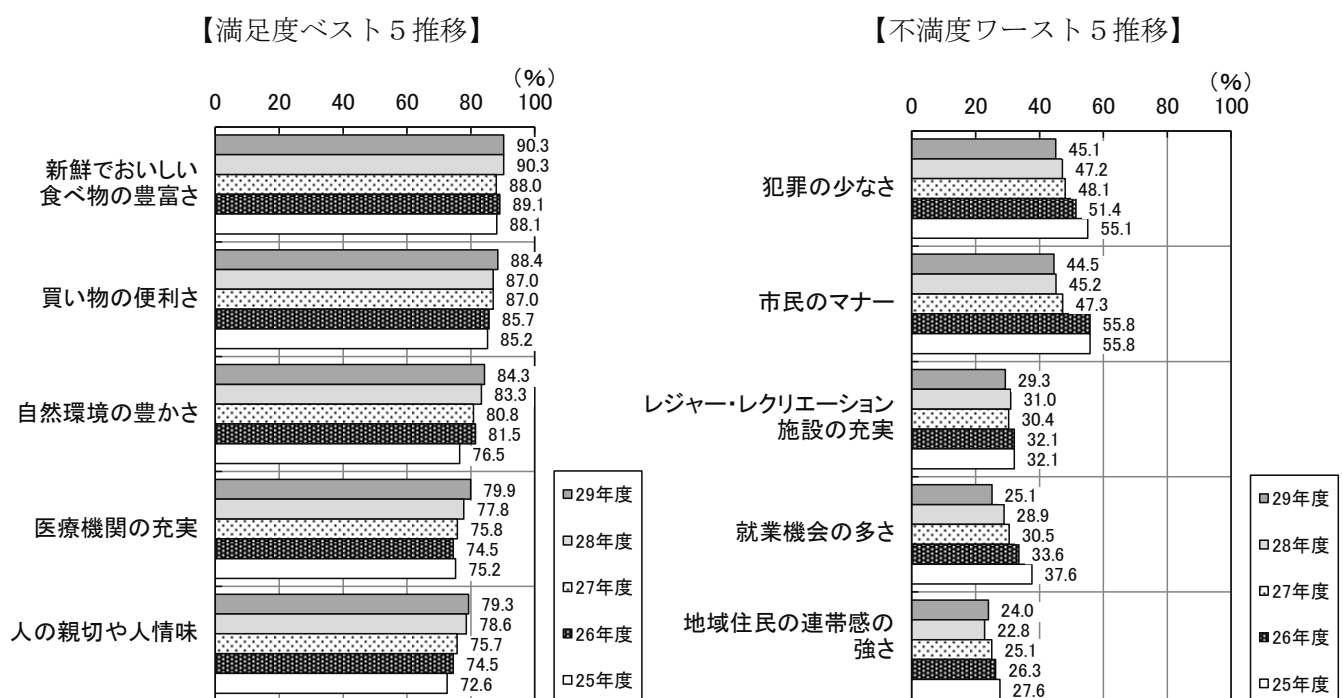
今回も、前回に引き続き、「福岡市の都市環境等の満足度」と「4指標」の相関分析を行い、「どの項目の満足度が、どの指標と関係性を持っているか」を明らかにする試みを行い、「どの項目の満足度の向上が、どの指標の向上に寄与するのか」また「どの項目の満足度が向上したとしても、指標の向上には影響を与えないのか」についての考察を行った。その相関分析の前に、まずは「福岡市の都市環境等の満足度」の特徴と経年推移について述べる。なお、経年推移に関しては、これまで同様20歳以上の回答を抽出して比較する。

福岡市の都市環境等で満足している点の上位は、「新鮮でおいしい食べ物の豊富さ」「買い物の便利さ」「自然環境の豊かさ」「医療機関の充実」、そして僅差で「人の親切や人情味」である。昨年度を比較すると、上から4番目が「人の親切や人情味」から「医療機関の充実」に取って代わった。この順位は、18・19歳を含む全体も、20歳以上の抽出回答でも同じである。

一方で、不満である点のワースト上位は、「犯罪の少なさ」「市民のマナー」「レジャー・レクリエーション施設の充実」「就業機会の多さ」「地域住民の連帯感の強さ」となっている。昨年度の5番手は「福祉の充実」だったが順位が入れ替わった。この順位は、18・19歳を含む全体も、20歳以上の抽出回答でも同じである。

昨年度に引き続き、ワースト項目で不満を持つ人の割合は全体的に減少した。さまざまな事業において、協働や共助を推進する「啓発」や市民活動の「支援」の成果が出てきていると考えられる。

図表8 都市環境等についての満足度推移 (20歳以上)



(4)「福岡市の都市環境等の満足度」と「福岡市が好き」「福岡市は住みやすい」との相関分析

平成27年度の分析では、「福岡市が好き」において、「人の親切や人情味」のみに相関係数[※]0.3以上の緩やかな正の相関がみられ、前年度では、「人の親切や人情味」「自然環境の豊かさ」「新鮮でおいしい食べ物の豊富さ」の3項目において、相関係数0.3以上の緩やかな正の相関がみられた。3回目となる今回(20歳以上抽出)は、0.3以上の相関項目は見られなかったが、やや関係性があると考えられる0.25以上の相関が「人の親切や人情味」「新鮮でおいしい食べ物の豊富さ」の2項目で見られた。

※相関係数：2つのデータがどれだけ関連性があるのかを示す係数で、-1～+1の間の数値となる。関連性が強ければ1に近づき、低ければ0に近づく。逆に、正反対の動きであれば-1に近づく。

図表9 『好き』と「都市環境等の満足度」の相関係数と都市環境等の満足度(20歳以上)

【前年度比較】

項目	平成29年度		平成28年度	
	相関係数 (問1と問5)	満足度(%) (問5)	相関係数 (問1と問5)	満足度(%) (問5)
人の親切や人情味	0.274	80.0	0.329	78.6
新鮮でおいしい食べ物の豊富さ	0.250	91.1	0.319	90.3
住宅事情	0.232	76.5	0.231	73.6
教育環境	0.230	59.0	0.241	59.1
子育てのしやすさ	0.230	53.2	0.247	50.9
自然環境の豊かさ	0.226	85.1	0.319	83.3
地域住民の連帯感の強さ	0.203	53.6	0.235	53.1
就業機会の多さ	0.202	49.6	0.155	43.7
買い物の便利さ	0.194	89.3	0.189	87.0
市民のマナー	0.193	46.8	0.220	44.5
物価の安さ	0.190	72.4	0.204	68.1
自然災害の少なさ	0.180	78.5	0.123	75.9
福祉の充実	0.171	51.0	0.198	46.3
芸術・文化水準	0.157	66.2	0.212	64.7
医療機関の充実	0.156	80.6	0.183	77.8
犯罪の少なさ	0.154	39.8	0.147	37.2
交通の便	0.147	77.7	0.186	76.1
レジャー・レクリエーション施設の充実	0.126	55.4	0.144	51.5

「人の親切や人情味」が3年連続で正の相関を示したことによって、「人の親切や人情味」項目の満足度が上がると、「福岡市が好き」指標の向上が期待できるということが出来る、という可能性がさらに高まった。今後継続した数年間、同様の分析をすることによって、このことは確証的になっていくものと期待される。

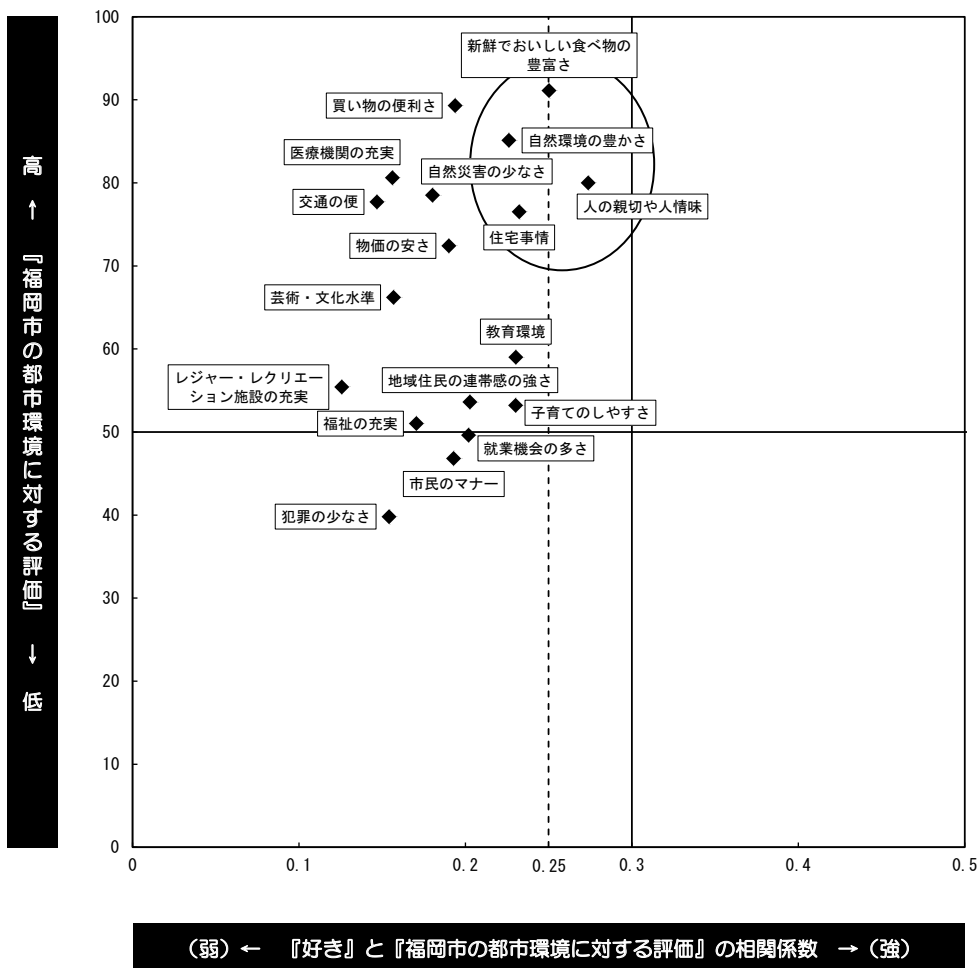
また今回は、「新鮮でおいしい食べ物の豊富さ」項目の満足率が上がると「福岡市が好き」指標の向上も期待できるとの傾向も得られた。

「食」は福岡市が積極的に推進する観光やMICE振興に大切な要素である。また、食の安全性に対する関心は年々高まってきている。

福岡市の食の魅力の代表に新鮮で種類豊富な鮮魚が挙げられる。福岡市においては、水産加工品の開発やブランド化にも積極的に取り組んでいるが、加工品や多様な調理法開発なども含め、漁業から飲食店や小売業までを含めた、食品産業全体の振興にもさらに取り組んでいくことが大切である。

図表 10 は、「都市環境等の満足度」の 18 項目全ての満足度と「福岡市が好き」との相関係数の関係をプロットしたものである。

図表 10 『好き』と「都市環境等の満足度」の相関係数と都市環境等の満足度との散布図
(20 歳以上)



「福岡市は住みやすい」においては、平成27年度は、「人の親切や人情味」のみに相関係数0.3以上の緩やかな正の相関がみられた。しかし、前年度は0.3以上を示した項目は1つもなかったものの、上位8項目が、やや関連性があるのではないかと見える0.25以上の係数を示した。

今年度（20歳以上抽出）は、再び「人の親切や人情味」のみに相関係数0.3以上が確認され、「子育てのしやすさ」「住宅事情」「新鮮でおいしい食べ物の豊富さ」「教育環境」に0.25以上の関係性が見られた。

「人の親切や人情味」は3年連続の関係性が確認されたが、『好き』との相関同様、しばらく継続して普遍的な傾向か、個々の回答者に左右されやすい傾向なのかを見極める必要がある。

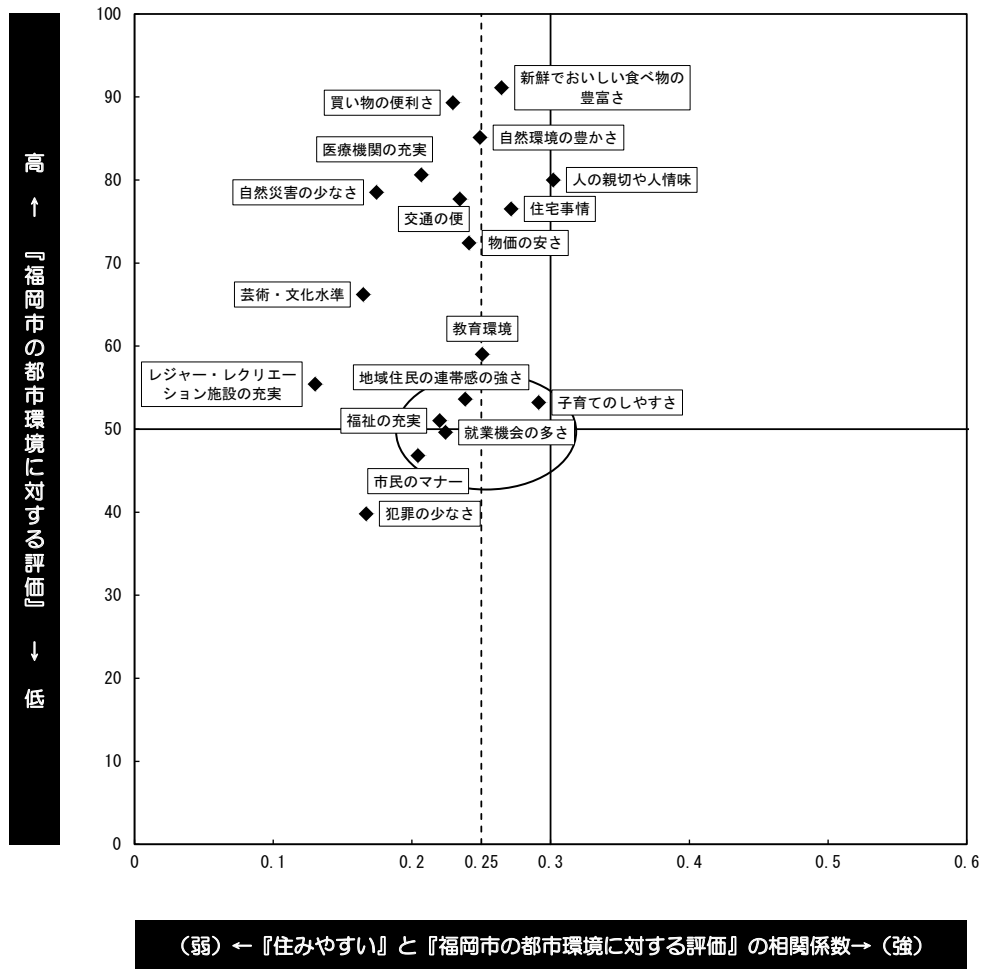
図表11 『住みやすい』と「都市環境等の満足度」の相関係数と都市環境等の満足度
(20歳以上)【前年度比較】

項目	平成29年度		平成28年度	
	相関係数 (問2と問5)	満足度(%) (問5)	相関係数 (問2と問5)	満足度(%) (問5)
人の親切や人情味	0.302	80.0	0.288	78.6
子育てのしやすさ	0.291	53.2	0.289	50.9
住宅事情	0.272	76.5	0.280	73.6
新鮮でおいしい食べ物の豊富さ	0.265	91.1	0.293	90.3
教育環境	0.251	59.0	0.265	59.1
自然環境の豊かさ	0.249	85.1	0.281	83.3
物価の安さ	0.241	72.4	0.230	68.1
地域住民の連帯感の強さ	0.238	53.6	0.248	53.1
交通の便	0.235	77.7	0.252	76.1
買い物の便利さ	0.230	89.3	0.244	87.0
就業機会の多さ	0.224	49.6	0.189	43.7
福祉の充実	0.220	51.0	0.245	46.3
医療機関の充実	0.207	80.6	0.179	77.8
市民のマナー	0.204	46.8	0.260	44.5
自然災害の少なさ	0.174	78.5	0.163	75.9
犯罪の少なさ	0.167	39.8	0.179	37.2
芸術・文化水準	0.165	66.2	0.190	64.7
レジャー・レクリエーション施設の充実	0.130	55.4	0.138	51.5

今回3回連続して0.25以上の相関を示した「子育てのしやすさ」「人の親切や人情味」「住宅事情」「教育環境」は、都市生活を支える機能の基盤項目である。このなかで、満足度が60%に満たない「子育てのしやすさ」「教育環境」は、次世代を見据えた福岡市の住みやすさを考えると、大きな重点項目である。このことについては、前年度も指摘した。

図表 12 は、「都市環境等の満足度」の 18 項目全ての満足度と「住みやすい」との相関係数の関係をプロットしたものである。中央付近に位置する「子育てのしやすさ」「教育環境」は、施策の影響を受けやすい満足度項目である。この 2 つの満足度を連動してともに上げていけるような取り組みが引き続き求められる。

図表 12 『住みやすい』と「都市環境等の満足度」の相関係数と都市環境等の満足度との散布図 (20 歳以上)



(5) 若者の市政参画・地域活動への参加を促進していこう（18歳からの地域協働）

今回調査の結果では、これまで福岡市の特徴といわれながら可視化されてこなかった、学生を中心とする18～22歳の若者意識の傾向をつかむことができた。特に「住み続けたい」が「住み続けられるかどうかわからない」という気持ちや、「福岡市のために役に立ちたいが、まだ積極的に行動を起こせない」でいる姿を垣間見られたと思う。

「子育てのしやすさ」「教育環境」の分野は、施策の影響を受けやすい満足度項目であることは先に述べた。そして、この項目は、18～22歳を含む18～29歳の若者が、まさに当事者として、また近い将来の当事者として直面する施策領域である。この2分野の満足度を上げていくためには、子育てや一通りの教育を終えてしまった年配者たちのアイデアや行動だけでは、簡単に上昇していかない。当事者が自ら問題提起し、現在から将来にかけて展開できる新しい方法、特にICT技術などを通じて、同世代および世代間の協働を通じて解決していくことが望ましい分野である。

そのためには、もっと若者の声を聴いていくべきだと考える。図表13は、今回調査の標本母集団の平成29年7月末現在年代別人口、実際の標本実現値の年代別実数、さらに右2項目は、各年代別の比率差と期待値と実現値の差を計算したものである。この結果を見ると明らかなことは、若者の回収率が低く意識調査結果に声が反映されにくい状況にある一方で、年齢が高い層の声の実態以上に大きく届けられている可能性である。

特に、「子育てのしやすさ」「教育環境」の当事者率が高い18～29歳は、人口構成比率上17.6%（421名）の回答が期待されているにもかかわらず、10.2%（243名）の回答となっており、期待値からの乖離が激しい。この若者からの声をしっかり聴けるような意識調査方法の検討は、早急に対処すべき課題といえる。

図表13 年代別標本期待値および実現値、年代別比率・実数の差

		住民基本台帳人口 (平成29年7月末現在)		本調査の標本数実現値 (回答数)		本調査の 標本数期待値	比率の差	期待値と 実現値の差
		実数	比率(A)	実数(C)	比率(B)	(D)	(B-A)	(C-D)
年代別	18～29歳	224,717	17.6	243	10.2	421	-7.44	-178
	30代	226,235	17.7	360	15.1	423	-2.67	-63
	40代	240,679	18.9	440	18.4	452	-0.45	-12
	50代	180,050	14.1	382	16.0	337	1.87	45
	60代	185,462	14.5	458	19.2	347	4.62	111
	70歳以上	218,817	17.2	507	21.2	409	4.06	98
計		1,275,960	100.0	2,390	100.0	2,389		
再掲	18・19歳	30,447	2.4	33	1.4	57	-1.01	-24
	18～22歳	83,978	6.6	80	3.4	157	-3.23	-77

2. 「住みやすさ」に関する調査結果

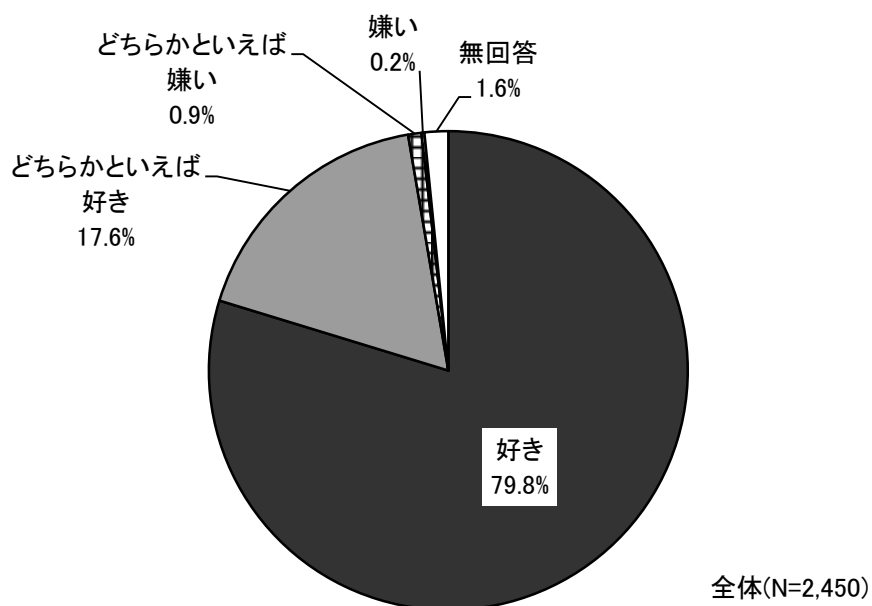
(1) 福岡市が好きかどうか

問1 あなたは福岡市が好きですか。あてはまるものを1つだけ選び、番号に○をつけてください。

福岡市が好きかどうかについて聞いたところ、「好き」と回答した人が79.8%と最も多く、次いで「どちらかといえば好き」(17.6%)となっている。

また、『好き』(=「好き」+「どちらかといえば好き」)の割合は97.4%で9割台後半と大変高くなっている。一方、『嫌い』(=「嫌い」+「どちらかといえば嫌い」)の割合は1.1%となっている。

図表 福岡市が好きかどうか【全体】

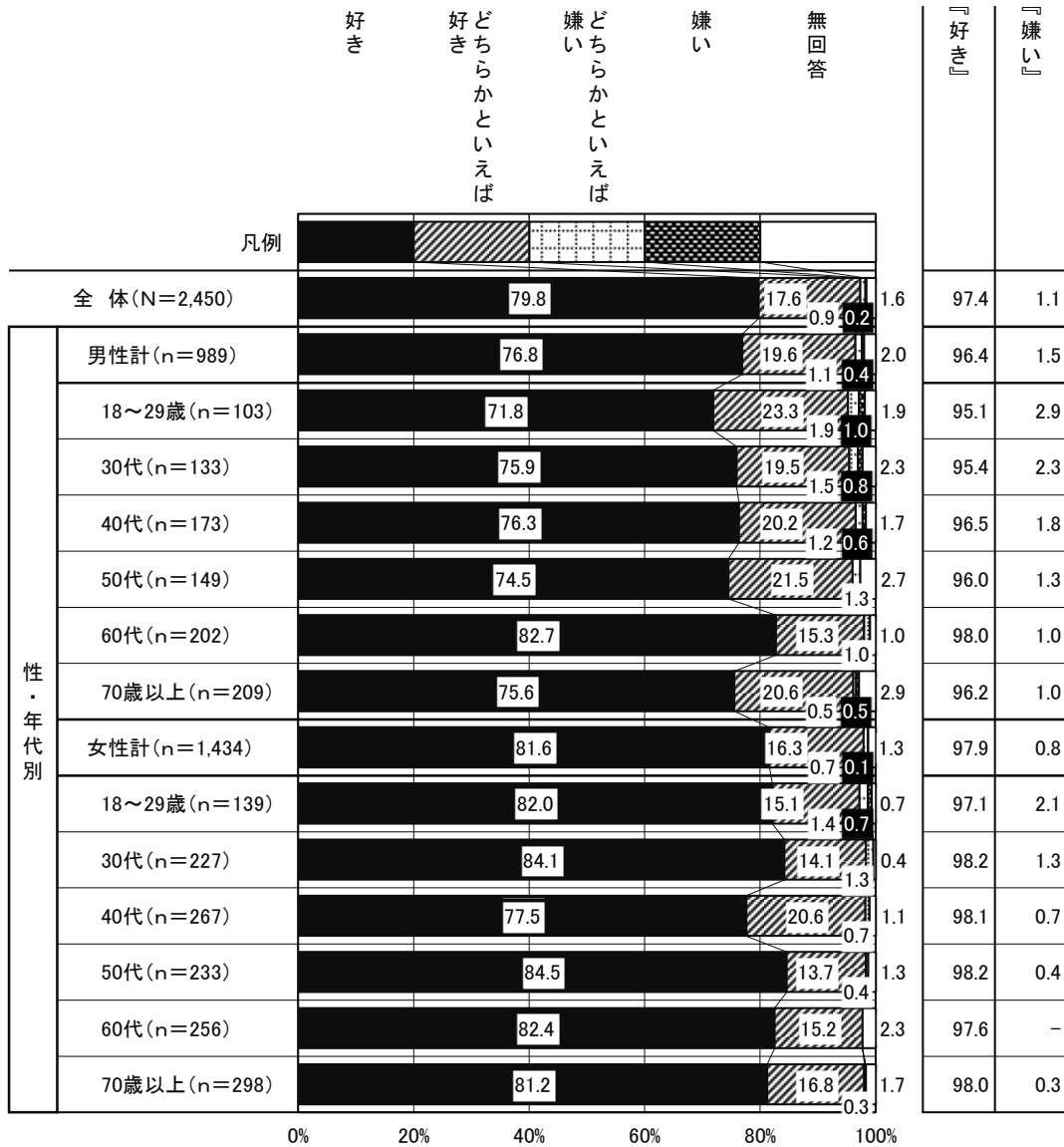


『好き』	97.4%
『嫌い』	1.1%

性別にみると、男女ともに『好き』の割合が9割台後半と高くなっている。

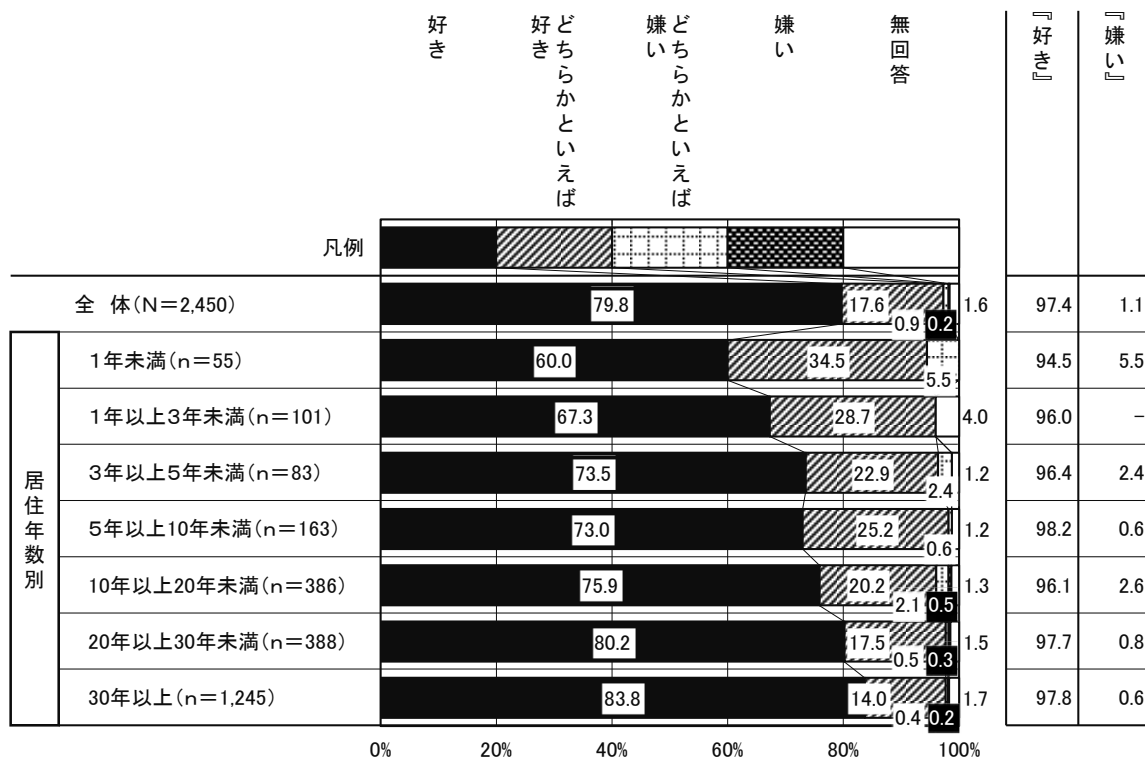
性・年代別にみると、男女ともにいずれの年代でも『好き』の割合が9割を超えており、その内訳をみると、男性では60代、女性は40代を除くすべての年代で「好き」が8割を超えており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 福岡市が好きかどうか【性・年代別】



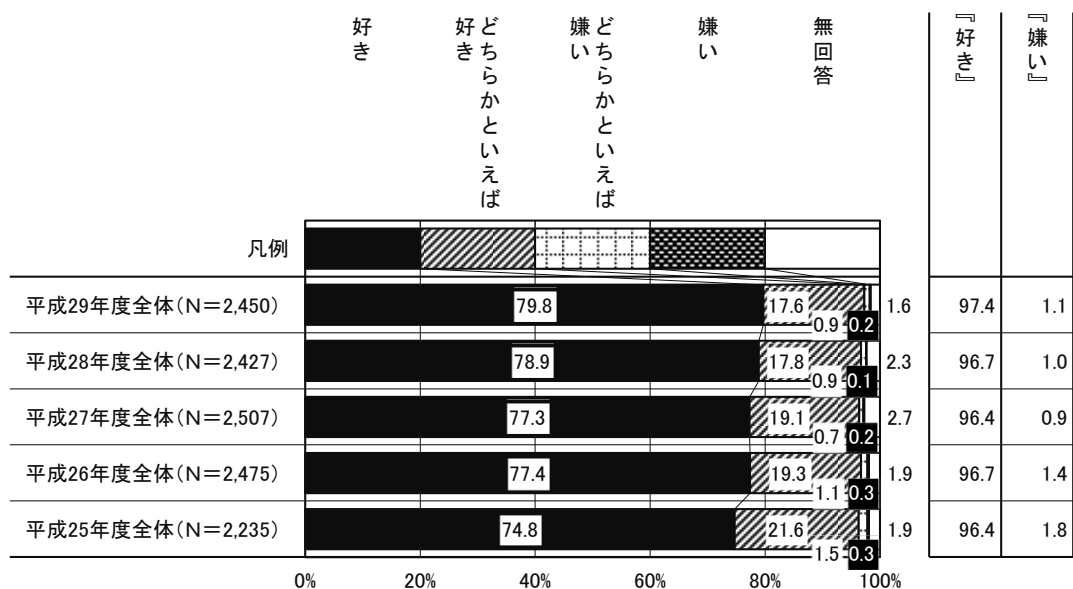
居住年数別にみると、いずれの居住年数においても、『好き』の割合が9割を超えている。概ね居住年数が長いほど「好き」の割合が高くなっており、20年以上では「好き」の割合が8割台前半となっている。

図表 福岡市が好きかどうか【居住年数別】



過去の調査結果をみると、福岡市を『好き』と回答した人がいずれも9割台後半となっている。また、概ね「好き」の割合は年々高くなっている。

図表 福岡市が好きかどうか【過去の調査との比較】



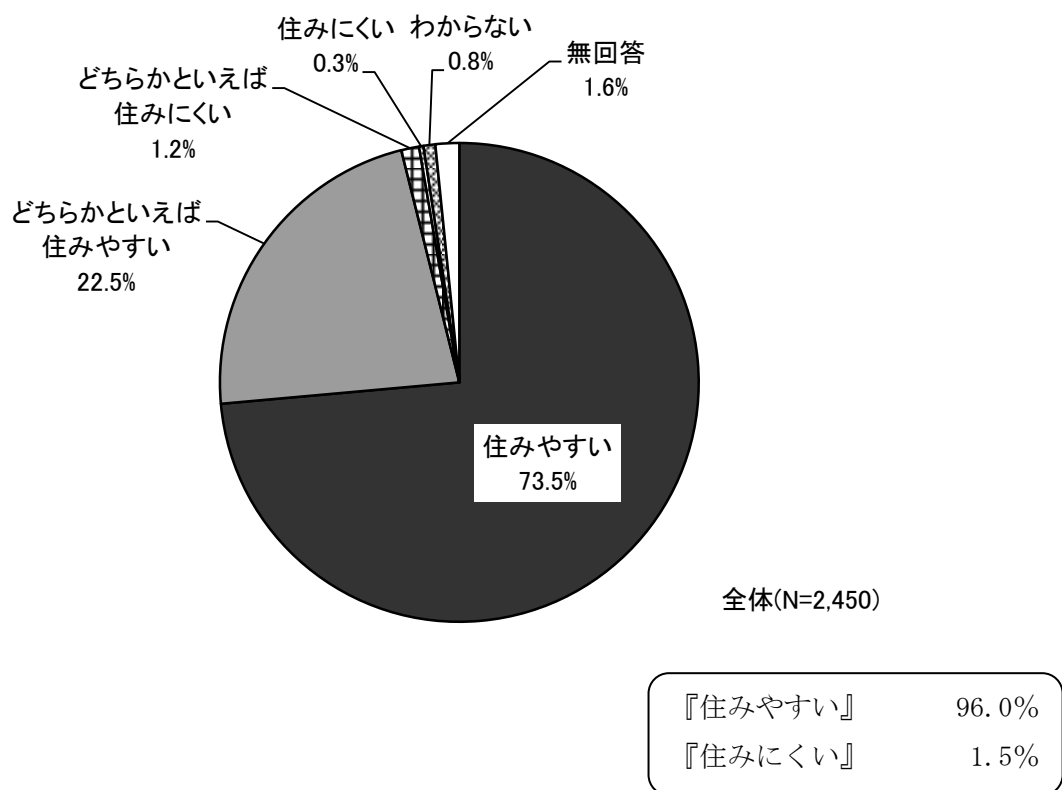
(2) 総合的な福岡市の住みやすさ

問2 総合的にみて、福岡市は住みやすいと思いますか。あてはまるものを1つだけ選び、番号に○をつけてください。

総合的な福岡市の住みやすさについて聞いたところ、「住みやすい」と回答した人が、73.5%と最も多く、次いで「どちらかといえば住みやすい」(22.5%)となっている。

また、『住みやすい』(=「住みやすい」+「どちらかといえば住みやすい」)の割合は96.0%で9割台半ばとなっている。一方、『住みにくい』(=「住みにくい」+「どちらかといえば住みにくい」)の割合は1.5%となっている。

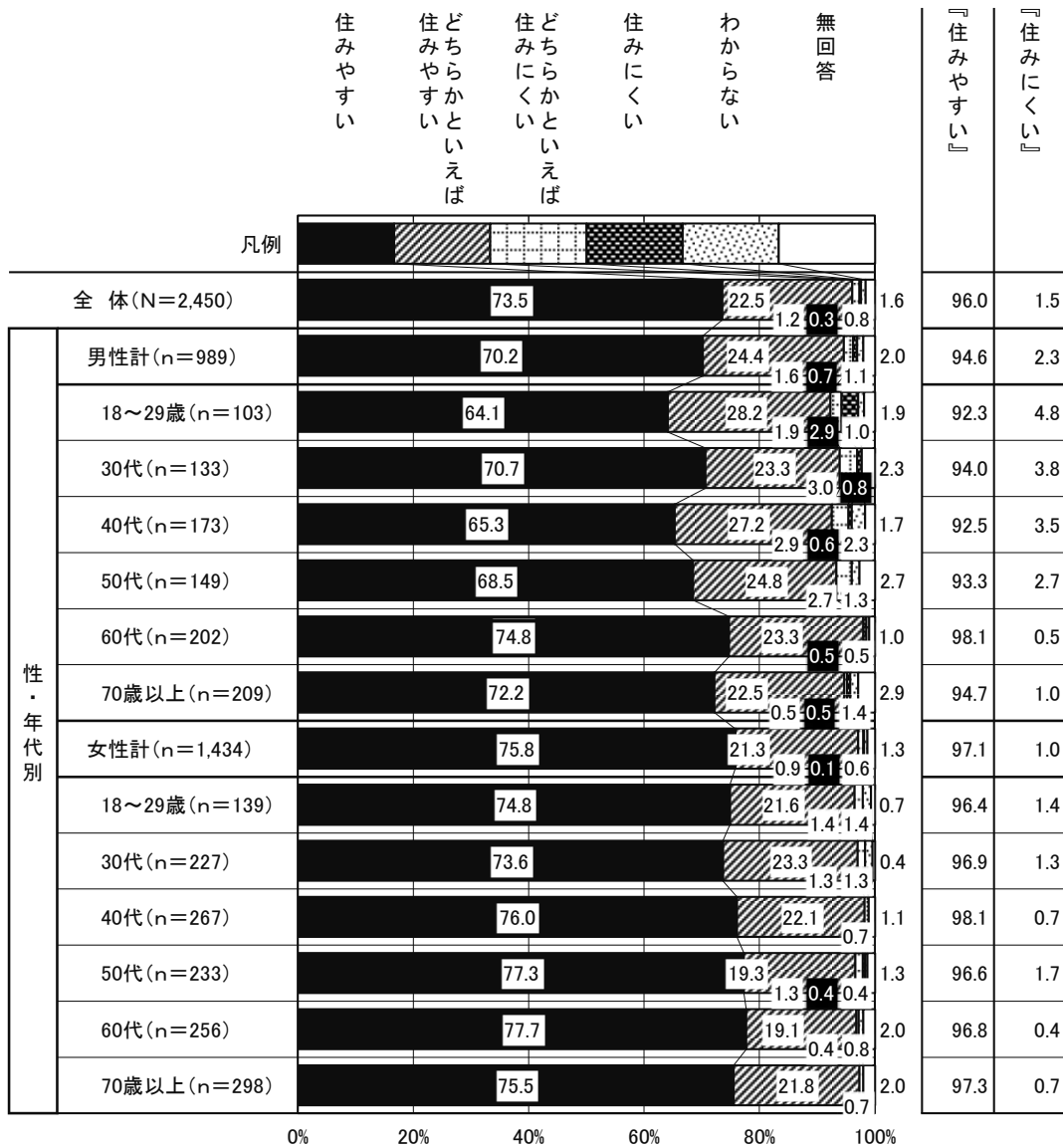
図表 総合的な福岡市の住みやすさ【全体】



性別にみると、男女ともに『住みやすい』の割合が9割を超えて高くなっている。

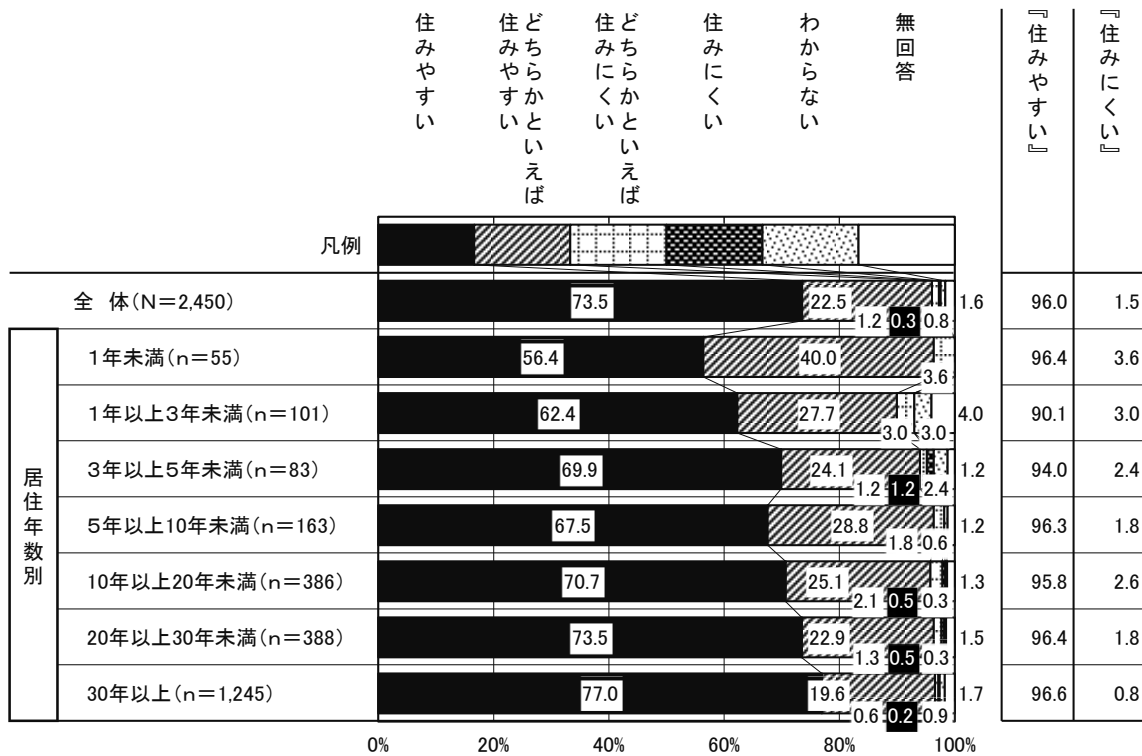
性・年代別にみると、男女ともにいずれの年代でも『住みやすい』の割合が9割を超えて高くなっている。

図表 総合的な福岡市の住みやすさ【性・年代別】



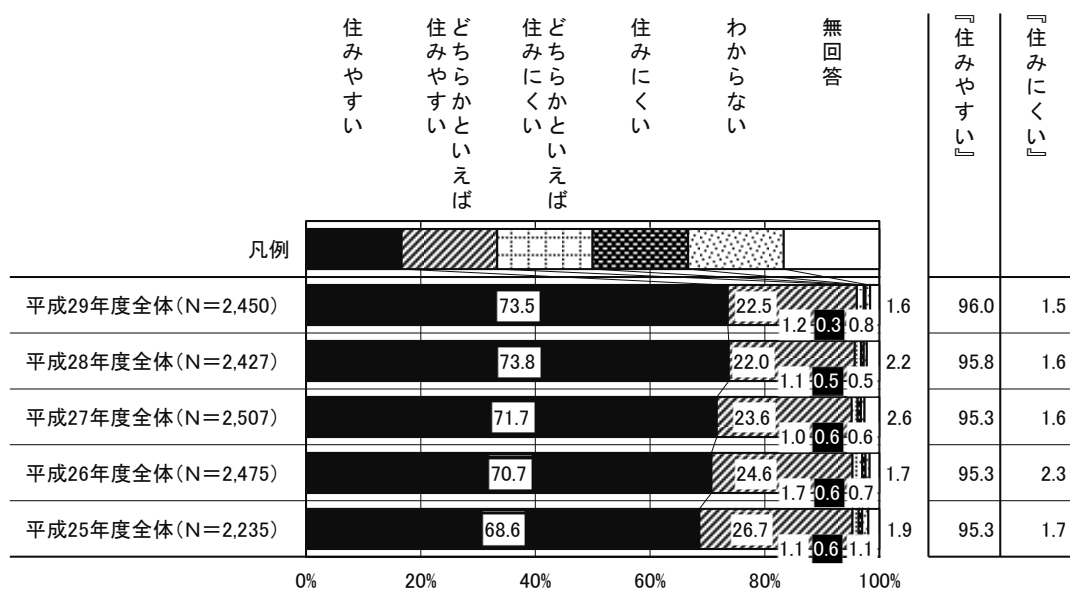
居住年数別にみると、すべての居住年数において、『住みやすい』の割合が9割を超えている。概ね居住年数が長いほど「住みやすい」の割合が高くなっており、30年以上では「住みやすい」の割合が約8割となっている。

図表 総合的な福岡市の住みやすさ【居住年数別】



過去の調査結果をみると、概ね「住みやすい」の割合は年々高くなっている。

図表 総合的な福岡市の住みやすさ【過去の調査との比較】



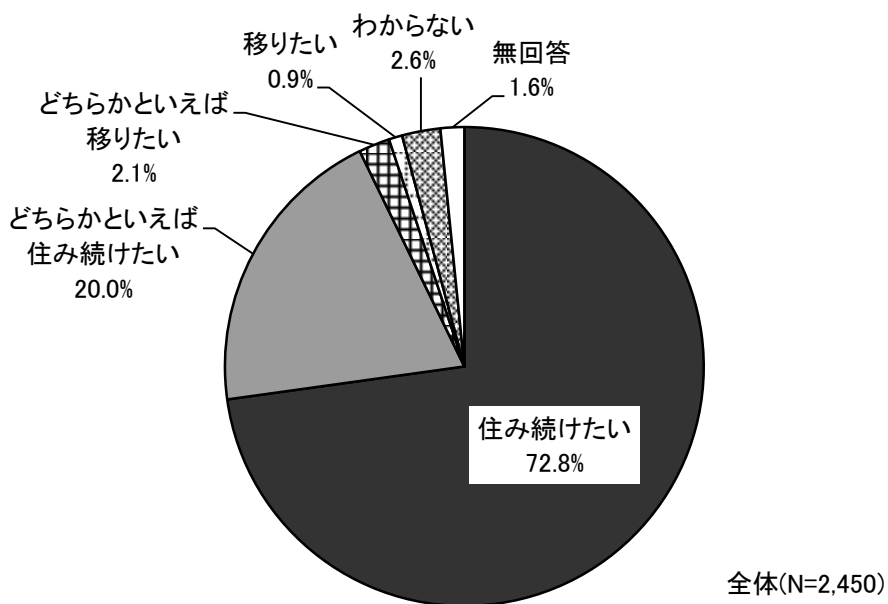
(3) 福岡市にずっと住み続けたいと思うか

問3 あなたは事情が許せば福岡市にずっと住み続けたいと思いますか。あてはまるものを1つだけ選び、番号に○をつけてください。

事情が許せば福岡市にずっと住み続けたいと思うかについて聞いたところ、「住み続けたい」と回答した人が 72.8%と最も多く、次いで「どちらかといえば住み続けたい」(20.0%) となっている。

また、『住み続けたい』(=「住み続けたい」+「どちらかといえば住み続けたい」)の割合は 92.8%で約9割となっている。一方、『移りたい』(=「移りたい」+「どちらかといえば移りたい」)の割合は 3.0%となっている。

図表 福岡市にずっと住み続けたいと思うか【全体】

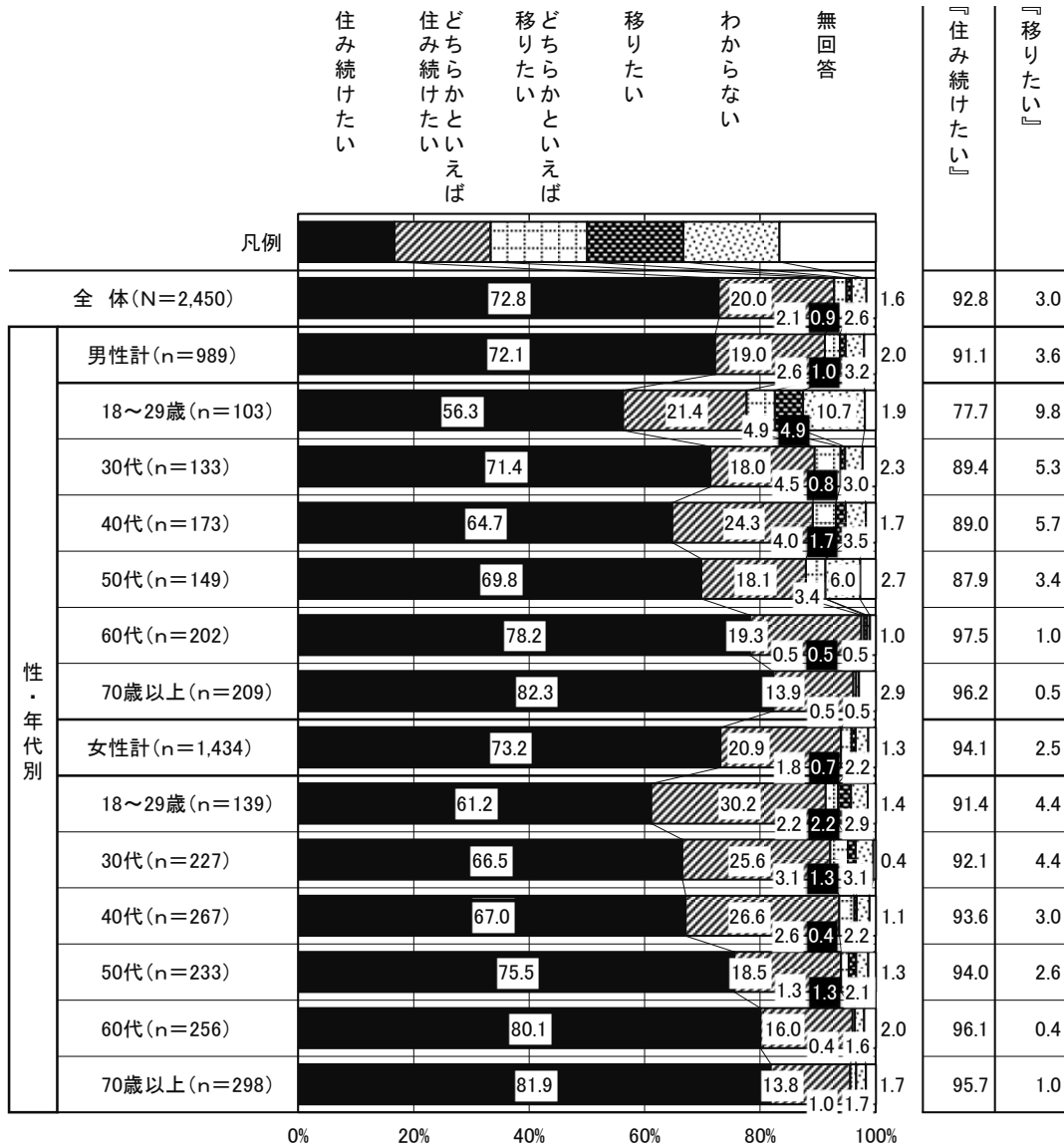


『住み続けたい』	92.8%
『移りたい』	3.0%

性別にみると、男女ともに『住み続けたい』の割合が9割を超えて高くなっている。

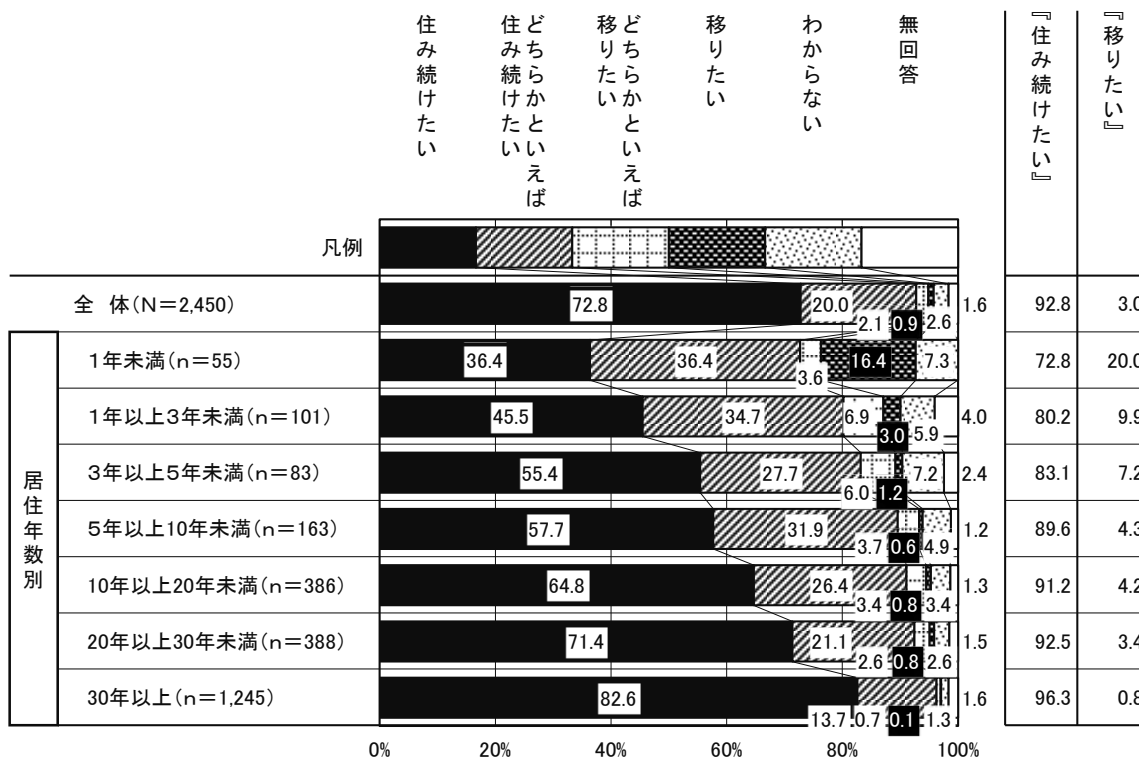
性・年代別にみると、男性18～29歳を除くすべての年代で『住み続けたい』の割合が8割を超えて高くなっており、その内訳をみると、男性70歳以上、女性60代以上では「住み続けたい」の割合が8割台前半となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 福岡市にずっと住み続けたいと思うか【性・年代別】



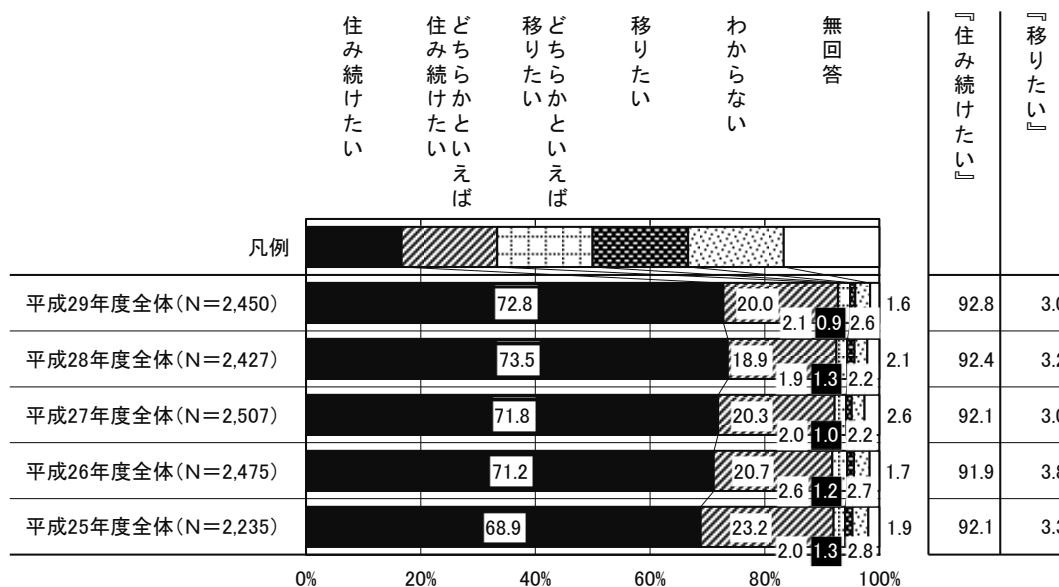
居住年数別にみると、「住み続けたい」の割合は、居住年数が長くなるほど高くなっており、30年以上では約8割となっている。

図表 福岡市にずっと住み続けたいと思うか【居住年数別】



過去の調査結果をみると、概ね『住み続けたい』の割合は年々高くなっている。

図表 福岡市にずっと住み続けたいと思うか【過去の調査との比較】



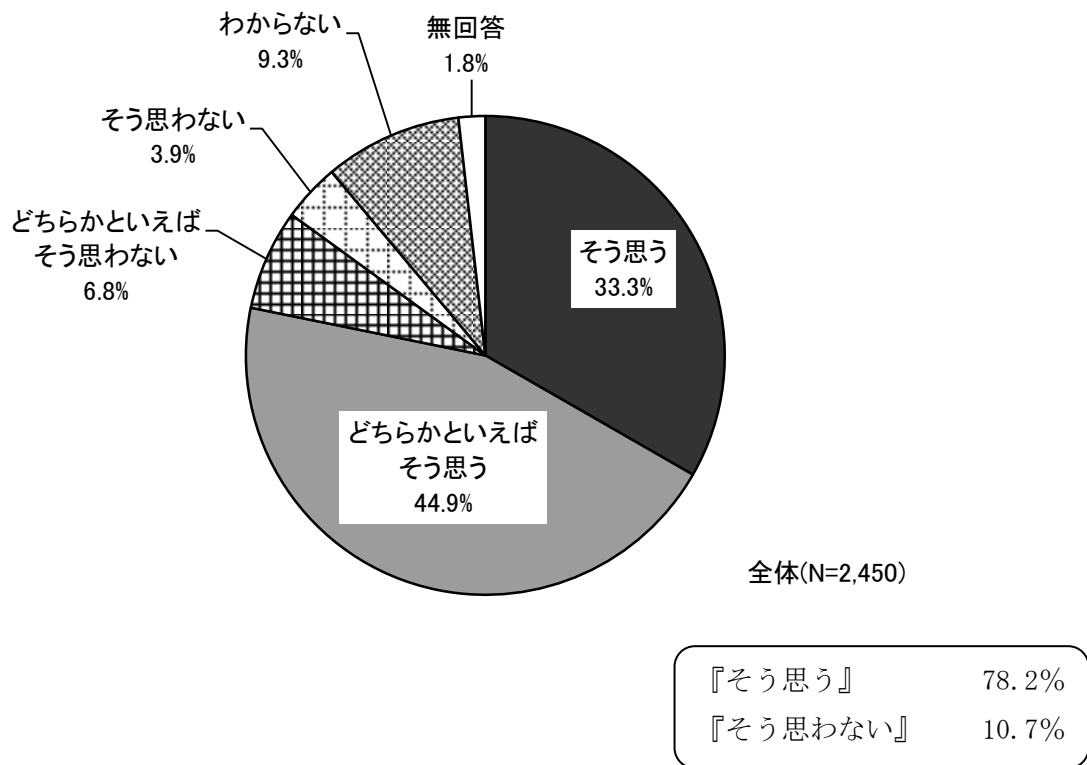
(4) 福岡市民や訪問者のために何か役に立ちたいと思うか

問4 あなたは福岡市で暮らす人や福岡市を訪れる人のために、何か役に立ちたいと思いますか。あてはまるものを1つだけ選び、番号に○をつけてください。

福岡市民や訪問者のために何か役に立ちたいと思うかについて聞いたところ、「どちらかといえ
ばそう思う」と回答した人が44.9%と最も多く、次いで「そう思う」(33.3%)となっている。

また、『そう思う』(=「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)の割合は78.2%で7割
台後半となっている。一方、『そう思わない』(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わな
い」)の割合は10.7%となっている。

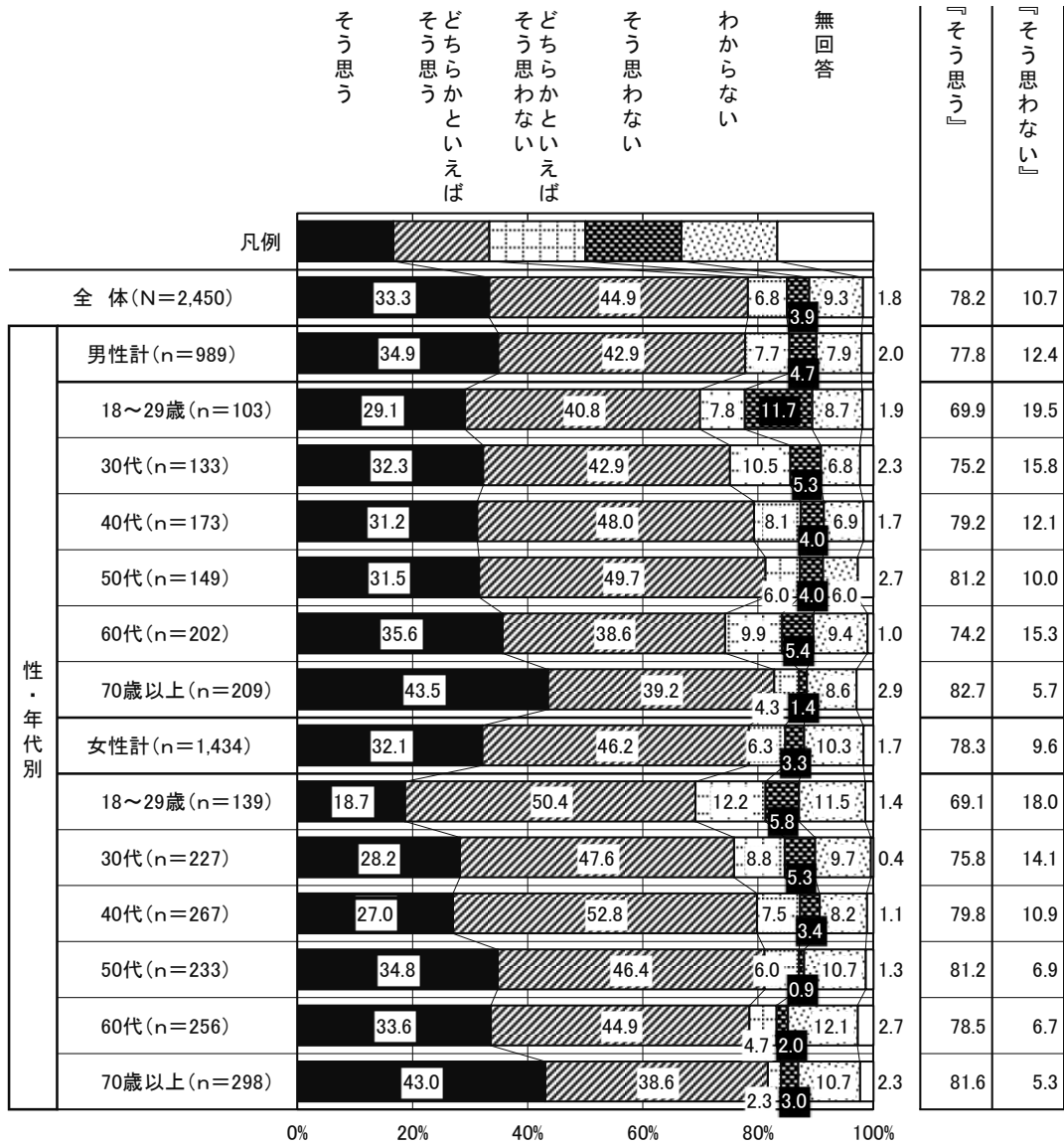
図表 福岡市民や訪問者のために何か役に立ちたいと思うか【全体】



性別にみると、男女ともに『そう思う』の割合は7割台後半となっている。

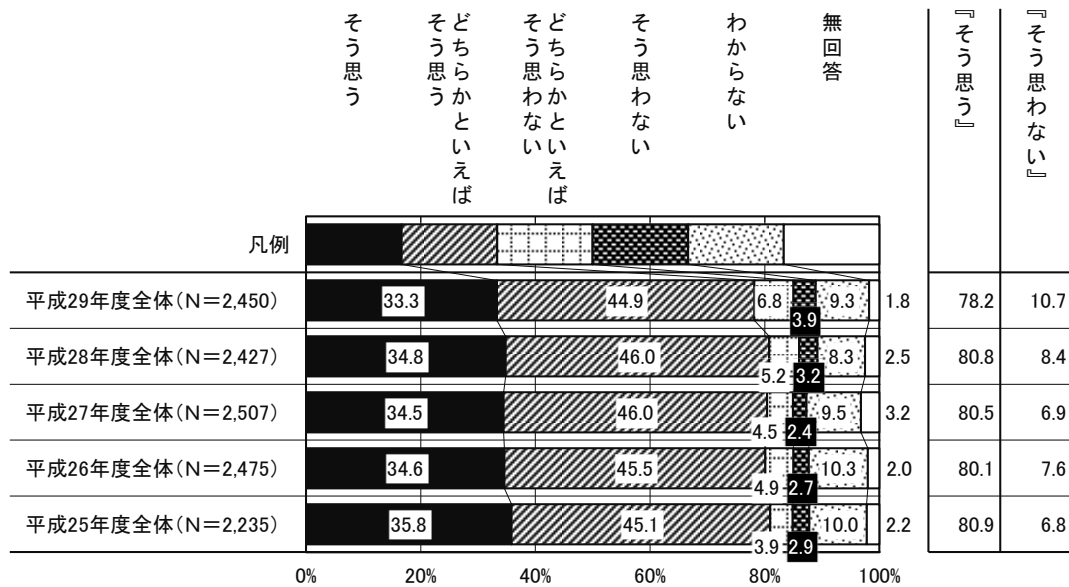
性・年代別にみると、男女ともに18～29歳では『そう思う』の割合が6割台後半となっており、他の性・年代に比べて低くなっている。一方で、男女ともに70歳以上では「そう思う」の割合が4割台前半となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 福岡市民や訪問者のために何か役に立ちたいと思うか【性・年代別】



過去の調査結果をみると、『そう思う』(78.2%)は前回の平成28年度調査(80.8%)から2.6ポイント減少している。

図表 福岡市民や訪問者のために何か役に立ちたいと思うか【過去の調査との比較】



(5) 福岡市の都市環境等に関する満足度

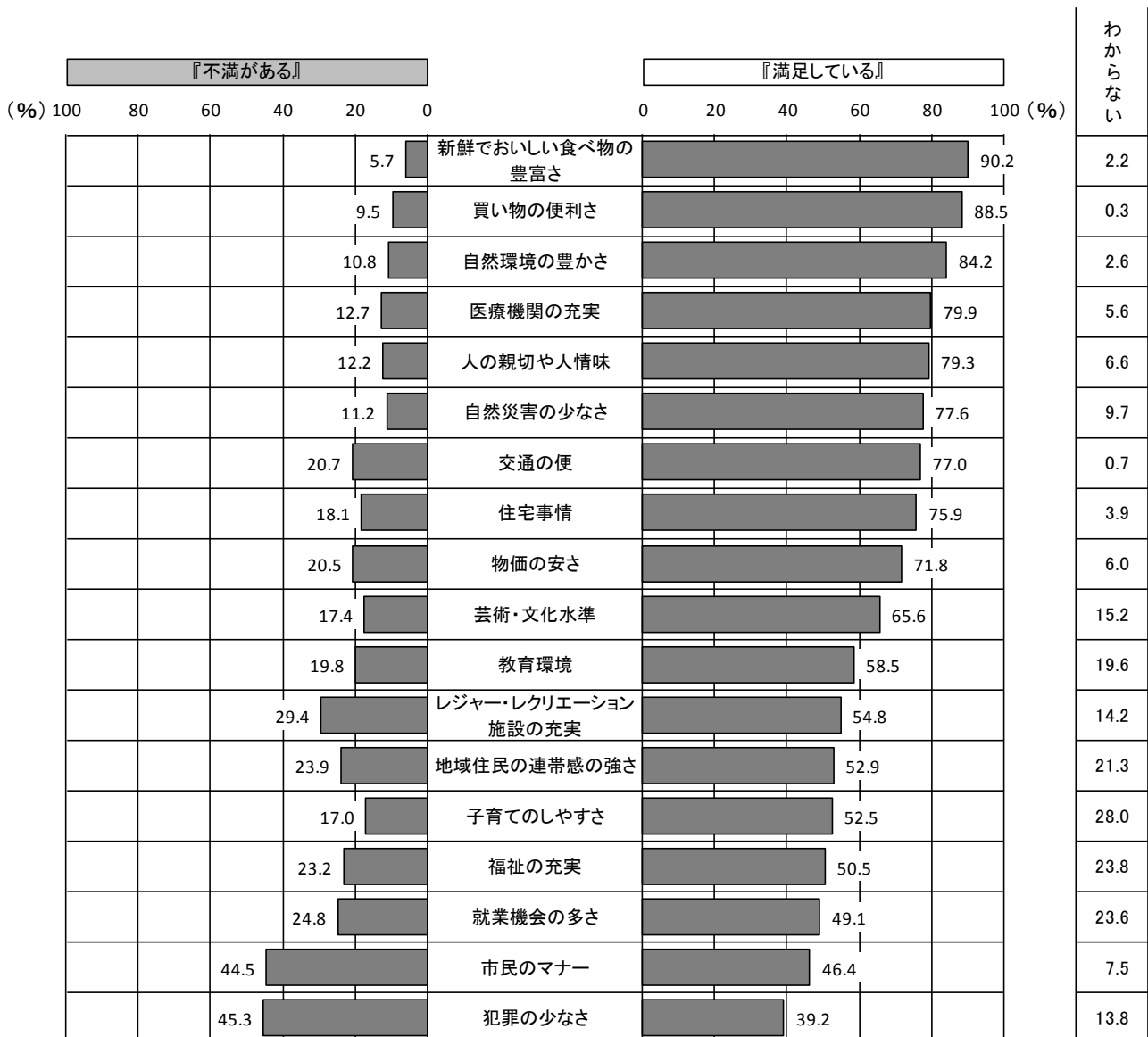
問5 以下の福岡市の都市環境等についてどの程度満足していますか。もしくは不満がありますか。(1)～(18)のそれぞれの項目について、あてはまるものを1つずつ選び、番号に○をつけてください。

福岡市の都市環境等で、『満足している』(=「満足している」+「どちらかといえば満足」と回答した人は、「新鮮でおいしい食べ物の豊富さ」が90.2%と最も高く、次いで「買い物の便利さ」(88.5%)、「自然環境の豊かさ」(84.2%)となっている。

一方、『不満がある』(=「不満がある」+「どちらかといえば不満」と回答した人は、「犯罪の少なさ」が45.3%と最も多く、次いで「市民のマナー」(44.5%)、「レジャー・レクリエーション施設の充実」(29.4%)となっている。

また、「わからない」と回答した人は、「子育てのしやすさ」が28.0%と最も多く、次いで「福祉の充実」(23.8%)、「就業機会の多さ」(23.6%)となっている。

図表 福岡市の都市環境等に関する満足度【全体】



福岡市の都市環境等で『満足している』点について、性別にみると、男女ともに「新鮮でおいしい食べ物の豊富さ」（男性：90.0％，女性：90.5％）の満足度が最も高くなっている。

性・年代別にみると、男性40代～60代，女性30代以上では「新鮮でおいしい食べ物の豊富さ」，男女ともに18～29歳，男性30代では「買い物の便利さ」の満足度が最も高くなっている。男女ともに70歳以上，女性60代では「福祉の充実」の割合が6割台前半となっており，他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 福岡市の都市環境等で『満足している』点【性・年代別】

単位：％

	調査数	自然環境の豊かさ	住宅事情	交通の便	買い物の便利さ	物価の安さ	新鮮でおいしい食べ物の豊富さ	芸術・文化水準	教育環境	子育てのしやすさ
全体	2,450	84.2 (3位)	75.9	77.0	88.5 (2位)	71.8	90.2 (1位)	65.6	58.5	52.5
男性計	989	83.9 (3位)	76.4	76.1	89.4 (2位)	69.4	90.0 (1位)	62.9	58.7	50.5
18～29歳	103	69.9	71.8	74.8 (4位)	91.3 (1位)	67.0	79.6 (2位)	56.3	46.7	29.1
30代	133	83.5 (3位)	66.1	74.5 (4位)	91.7 (1位)	65.4	89.4 (2位)	52.6	51.1	43.6
40代	173	83.2 (3位)	75.2 (5位)	69.4	89.6 (2位)	72.8	90.1 (1位)	59.0	57.2	54.4
50代	149	85.2 (3位)	74.5	68.5	90.6 (2位)	69.8	91.3 (1位)	59.7	51.0	52.4
60代	202	86.6 (3位)	82.7	80.2	87.7 (2位)	71.8	93.5 (1位)	70.3	69.3	57.4
70歳以上	209	87.0 (4位)	80.9	84.2	87.5 (3位)	67.0	89.9 (2位)	70.4	67.0	55.0
女性計	1,434	84.5 (3位)	75.7	78.1	88.3 (2位)	73.7	90.5 (1位)	67.4	58.3	53.9
18～29歳	139	71.2	71.9	83.4 (3位)	91.3 (1位)	67.6	84.9 (2位)	58.3	43.9	31.7
30代	227	80.6 (3位)	69.6	77.9 (5位)	91.6 (2位)	73.1	92.9 (1位)	62.1	53.4	49.3
40代	267	86.9 (3位)	76.8	76.1	92.5 (2位)	76.0	93.2 (1位)	67.8	52.1	55.1
50代	233	87.1 (2位)	78.5	77.3	86.3 (3位)	74.2	90.5 (1位)	68.3	64.4	53.7
60代	256	92.2 (1位)	80.5	76.2	87.9 (3位)	76.6	92.2 (1位)	77.8	68.3	68.4
70歳以上	298	83.9 (3位)	76.5	79.2	82.2 (4位)	72.2	87.9 (1位)	65.8	62.4	55.7

	就業機会の多さ	医療機関の充実	福祉の充実	人の親切や人情味	地域住民の連帯感の強さ	自然災害の少なさ	犯罪の少なさ	市民のマナー	レジャー・レクリエーション施設の充実	
49.1	79.9 (4位)	50.5	79.3 (5位)	52.9	77.6	39.2	46.4	54.8	全体	
48.4	79.3 (4位)	49.6	77.4	51.7	79.0 (5位)	40.4	45.4	55.3	男性計	
47.6	76.7 (3位)	40.8	71.9 (5位)	41.7	69.9	25.2	42.8	57.3	18～29歳	
44.4	69.9	42.1	71.5 (5位)	43.6	68.5	28.6	35.3	44.3	30代	
47.9	73.9	44.6	75.7 (4位)	50.9	72.8	36.4	35.3	49.2	40代	
45.6	79.1 (4位)	47.0	78.5 (5位)	48.4	76.5	34.9	46.3	58.4	50代	
52.5	85.2 (4位)	52.0	79.2	57.9	84.7 (5位)	45.0	50.5	61.4	60代	
48.8	85.2 (5位)	64.1	82.8	58.9	91.9 (1位)	58.4	55.5	58.8	70歳以上	
49.6	80.8 (5位)	51.2	80.9 (4位)	54.1	77.0	38.4	47.3	54.7	女性計	
48.2	82.8 (4位)	43.2	79.1 (5位)	41.8	56.1	16.5	45.3	53.2	18～29歳	
48.9	78.8 (4位)	45.8	77.1	48.4	70.9	26.9	43.2	48.4	30代	
53.9	82.7 (4位)	49.4	81.2 (5位)	56.9	79.0	33.3	45.7	50.5	40代	
48.5	77.2	42.1	79.0 (4位)	53.7	78.6 (5位)	41.7	42.0	54.5	50代	
54.7	85.1 (5位)	60.5	87.5 (4位)	55.9	82.8	51.5	50.4	63.3	60代	
44.6	79.5	60.4	80.8 (5位)	61.7	84.9 (2位)	50.0	55.4	58.0	70歳以上	

福岡市の都市環境等で『満足している』点について、行政区別にみると、博多区、中央区、城南区では「買い物の便利さ」、それ以外の行政区では「新鮮でおいしい食べ物の豊富さ」の満足度が最も高くなっている。

図表 福岡市の都市環境等で『満足している』点【行政区別】

単位：%

	調査数	自然環境の豊かさ	住宅事情	交通の便	買い物の便利さ	物価の安さ	新鮮でおいしい食べ物の豊富さ	芸術・文化水準	教育環境	子育てのしやすさ
全体	2,450	84.2	75.9	77.0	88.5	71.8	90.2	65.6	58.5	52.5
東区	504	80.8	73.0	77.7	85.6	67.3	87.1	62.7	56.5	50.8
博多区	314	79.7	71.7	80.3	88.9	68.8	88.5	60.5	45.8	43.3
中央区	299	81.6	74.6	81.9	91.0	67.6	90.6	61.9	59.2	51.2
南区	410	84.1	76.3	71.9	88.8	72.7	91.0	64.4	56.8	50.2
城南区	195	82.1	74.4	72.3	90.7	72.8	89.2	69.3	58.5	49.3
早良区	350	90.6	80.3	80.0	91.7	77.2	94.0	70.3	65.4	62.2
西区	348	90.5	81.3	75.9	87.4	78.4	92.6	71.8	67.3	60.1

就業機会の多さ	医療機関の充実	福祉の充実	人の親切や人情味	地域住民の連帯感の強さ	自然災害の少なさ	犯罪の少なさ	市民のマナー	レジャー・レクリエーション施設の充実	
49.1	79.9	50.5	79.3	52.9	77.6	39.2	46.4	54.8	全体
49.4	79.1	50.8	77.3	54.2	80.3	38.1	47.1	56.5	東区
44.6	76.1	46.5	77.1	47.4	69.8	32.1	40.4	53.5	博多区
48.5	78.3	44.8	77.6	47.5	73.5	38.1	42.8	53.2	中央区
51.9	80.7	52.4	80.5	53.9	80.2	39.3	47.3	54.1	南区
51.3	84.1	48.2	75.9	49.8	78.5	40.0	42.6	51.3	城南区
49.1	87.2	55.7	83.5	56.6	80.3	44.6	50.6	55.7	早良区
49.4	77.3	52.5	83.3	59.0	79.4	42.6	51.5	57.5	西区

福岡市の都市環境等で『不満がある』点について、性別にみると、男女ともに「犯罪の少なさ」（男性：48.1％、女性：43.5％）の不満足度が最も高くなっている。男性では「地域住民の連帯感の強さ」（28.4％）の割合が女性と比べて7.8ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、すべての性・年代において「犯罪の少なさ」「市民のマナー」の不満足度が他の項目に比べて高くなっている。

図表 福岡市の都市環境等で『不満がある』点【性・年代別】

単位：％

	調査数	自然環境の豊かさ	住宅事情	交通の便	買い物の便利さ	物価の安さ	新鮮でおいしい食べ物の豊富さ	芸術・文化水準	教育環境	子育てのしやすさ
全体	2,450	10.8	18.1	20.7	9.5	20.5	5.7	17.4	19.8	17.0
男性計	989	11.6	18.1	22.4	8.7	22.5	5.8	20.4	22.7	20.4
18～29歳	103	20.4	17.5	23.3 (5位)	5.8	20.4	9.7	17.5	26.2 (4位)	15.5
30代	133	12.8	30.1	24.8	6.8	30.1	8.3	23.3	21.8	25.6
40代	173	14.5	20.8	29.5	9.3	21.4	6.4	24.3	28.9	22.6
50代	149	10.7	22.2	30.2 (5位)	8.0	24.2	7.4	26.8	28.2	23.5
60代	202	7.9	11.4	17.3	9.4	19.4	1.5	17.9	17.8	20.8
70歳以上	209	8.6	12.5	13.8	10.5	21.6	5.3	13.9	15.8	15.3
女性計	1,434	10.1	17.9	19.6	9.8	19.1	5.8	15.3	17.9	14.6
18～29歳	139	23.0	19.4	15.2	8.6	26.6 (4位)	10.1	15.1	24.5 (5位)	15.8
30代	227	15.9	26.9 (4位)	20.7	8.0	20.7	5.3	18.5	19.3	15.9
40代	267	8.9	18.4	22.9	5.9	19.1	3.8	18.7	24.3 (5位)	17.6
50代	233	7.8	15.9	21.1	11.6	20.2	5.2	20.6	18.5	18.5
60代	256	4.7	14.0	21.9 (4位)	10.5	17.6	4.7	7.8	12.1	10.6
70歳以上	298	6.7	13.4	15.1	13.1	15.1	7.0	12.4	12.0	10.0

就業機会の多さ	医療機関の充実	福祉の充実	人の親切や人情味	地域住民の連帯感の強さ	自然災害の少なさ	犯罪の少なさ	市民のマナー	レジャー・レクリエーションの充実	
24.8 (4位)	12.7	23.2	12.2	23.9 (5位)	11.2	45.3 (1位)	44.5 (2位)	29.4 (3位)	全体
27.5 (5位)	14.2	26.1	14.5	28.4 (4位)	12.6	48.1 (1位)	47.1 (2位)	32.5 (3位)	男性計
14.6	13.6	13.6	16.5	19.4	15.5	55.3 (1位)	44.7 (2位)	30.1 (3位)	18～29歳
33.1 (5位)	16.5	22.6	18.8	34.6 (4位)	16.6	57.9 (1位)	57.9 (1位)	43.6 (3位)	30代
33.0 (4位)	18.5	31.8 (5位)	16.2	28.9	15.6	54.9 (2位)	61.3 (1位)	39.9 (3位)	40代
30.8 (4位)	18.2	28.2	14.1	29.5	17.5	55.7 (1位)	47.6 (2位)	31.6 (3位)	50代
28.7 (5位)	10.9	31.1 (3位)	11.9	28.8 (4位)	8.4	44.6 (1位)	41.1 (2位)	26.3	60代
22.0 (5位)	10.0	21.5	11.9	27.3 (3位)	5.8	28.7 (2位)	34.5 (1位)	25.4 (4位)	70歳以上
23.0 (4位)	11.4	21.0 (5位)	10.6	20.6	10.2	43.5 (1位)	42.7 (2位)	27.2 (3位)	女性計
20.2	9.4	17.2	15.8	18.7	23.7	66.9 (1位)	43.9 (2位)	28.8 (3位)	18～29歳
25.1 (5位)	12.8	12.4	11.9	15.4	11.0	56.0 (1位)	46.7 (2位)	35.3 (3位)	30代
25.9 (4位)	11.6	20.6	10.1	18.7	8.6	49.8 (1位)	46.8 (2位)	35.2 (3位)	40代
28.3 (5位)	14.1	32.2 (3位)	11.2	25.3	10.7	41.7 (2位)	47.2 (1位)	29.2 (4位)	50代
21.1 (5位)	9.4	20.3	7.9	23.9 (3位)	7.5	32.5 (2位)	42.6 (1位)	19.9	60代
16.8	11.1	21.8 (3位)	9.4	19.4 (4位)	6.0	27.5 (2位)	31.2 (1位)	17.8 (5位)	70歳以上

福岡市の都市環境等で『不満がある』点について、行政区別にみると、東区、博多区、南区、西区では「犯罪の少なさ」、中央区、城南区、早良区では「市民のマナー」の不満度が最も高くなっている。

図表 福岡市の都市環境等で『不満がある』点【行政区別】

単位：％

	調査数	自然環境の豊かさ	住宅事情	交通の便	買い物の便利さ	物価の安さ	新鮮でおいしい食べ物の豊富さ	芸術・文化水準	教育環境	子育てのしやすさ
全体	2,450	10.8	18.1	20.7	9.5	20.5	5.7	17.4	19.8	17.0
東区	504	12.9	18.3	19.4	10.3	23.1	7.6	16.3	22.1	19.3
博多区	314	14.6	22.6	17.6	9.6	23.6	6.7	17.2	22.6	19.1
中央区	299	12.7	20.4	16.4	7.7	23.8	6.4	25.1	17.4	14.7
南区	410	10.5	16.5	25.2	9.6	19.2	5.3	18.0	21.0	17.3
城南区	195	12.9	20.5	25.7	6.1	21.0	5.6	16.4	22.0	20.5
早良区	350	5.8	15.8	18.8	8.0	17.1	3.2	14.5	16.9	14.9
西区	348	6.3	14.0	23.0	11.8	16.4	4.6	15.2	16.3	13.2

就業機会の多さ	医療機関の充実	福祉の充実	人の親切や人情味	地域住民の連帯感の強さ	自然災害の少なさ	犯罪の少なさ	市民のマナー	レジャー・レクリエーション施設の充実	
24.8	12.7	23.2	12.2	23.9	11.2	45.3	44.5	29.4	全体
24.6	14.7	25.5	13.3	25.0	10.3	45.3	42.5	27.1	東区
24.9	14.9	19.7	14.0	24.2	15.3	51.9	49.7	28.0	博多区
26.1	12.4	22.0	14.4	25.1	12.0	48.2	48.5	33.8	中央区
23.7	9.5	21.7	10.3	21.5	8.6	44.9	43.2	28.3	南区
21.0	9.7	26.7	13.3	25.6	10.8	41.5	46.1	29.2	城南区
24.9	8.8	21.1	10.9	24.0	11.1	40.5	42.3	29.7	早良区
27.6	16.4	25.0	10.3	21.6	11.5	44.3	42.2	31.0	西区

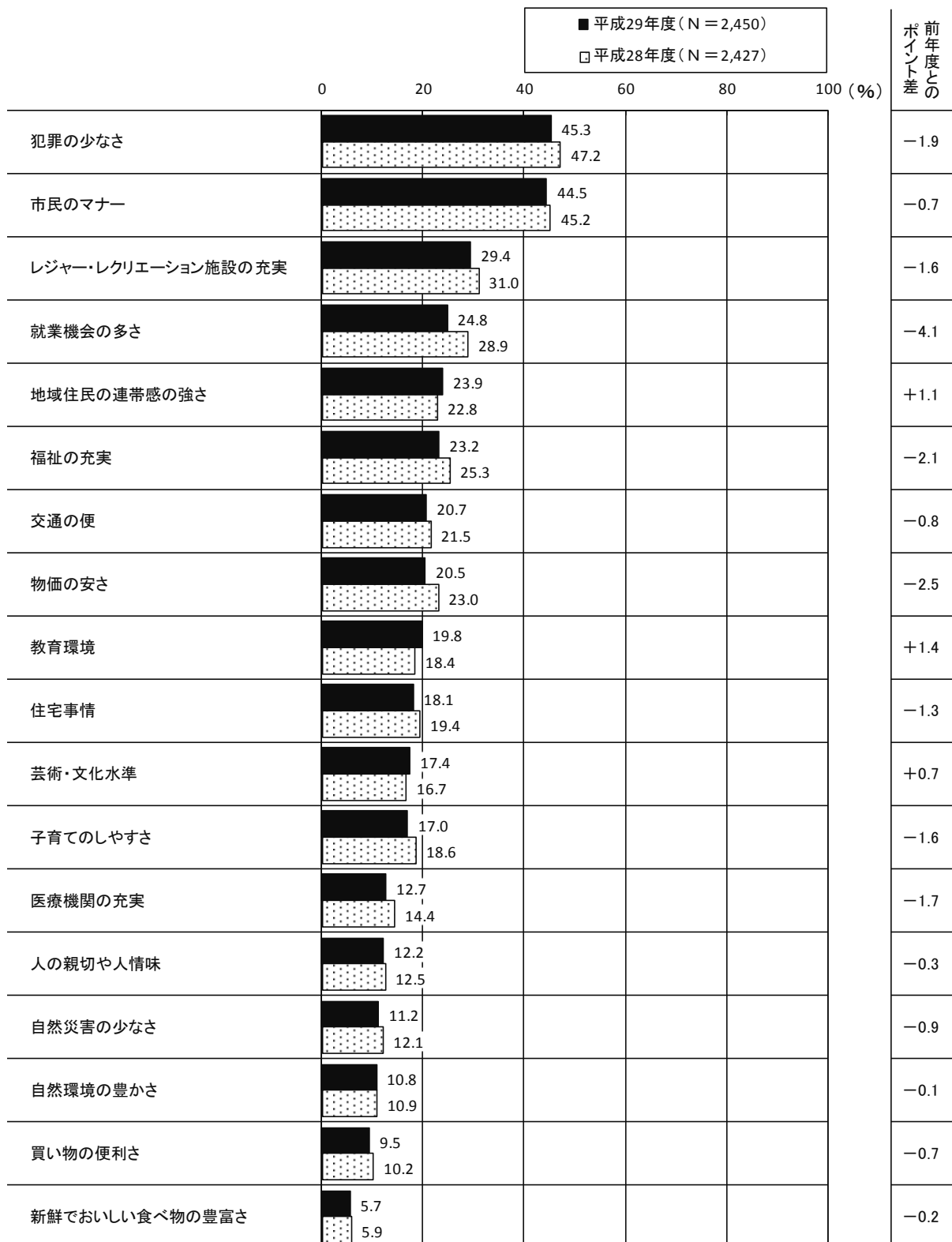
満足度について、過去の調査結果と比較すると、平成 29 年度は平成 28 年度に比べて満足度が高くなった項目が 15 項目、低くなった項目が 3 項目となっている。平成 28 年度と比べて特にポイント差が大きいものについてみると、「就業機会の多さ」が 5.4 ポイント増加、「福祉の充実」が 4.2 ポイント増加となっている。

図表 福岡市の都市環境等に関する満足度【過去の調査との比較】



不満度について、過去の調査結果と比較すると、平成29年度は平成28年度に比べて、不満度が低くなった項目が15項目、高くなった項目が3項目となっている。平成28年度と比べて特にポイントの差が大きいものについてみると、「就業機会の多さ」が4.1ポイント減少、「物価の安さ」が2.5ポイント減少となっている。

図表 福岡市の都市環境等に関する不満度【過去の調査との比較】

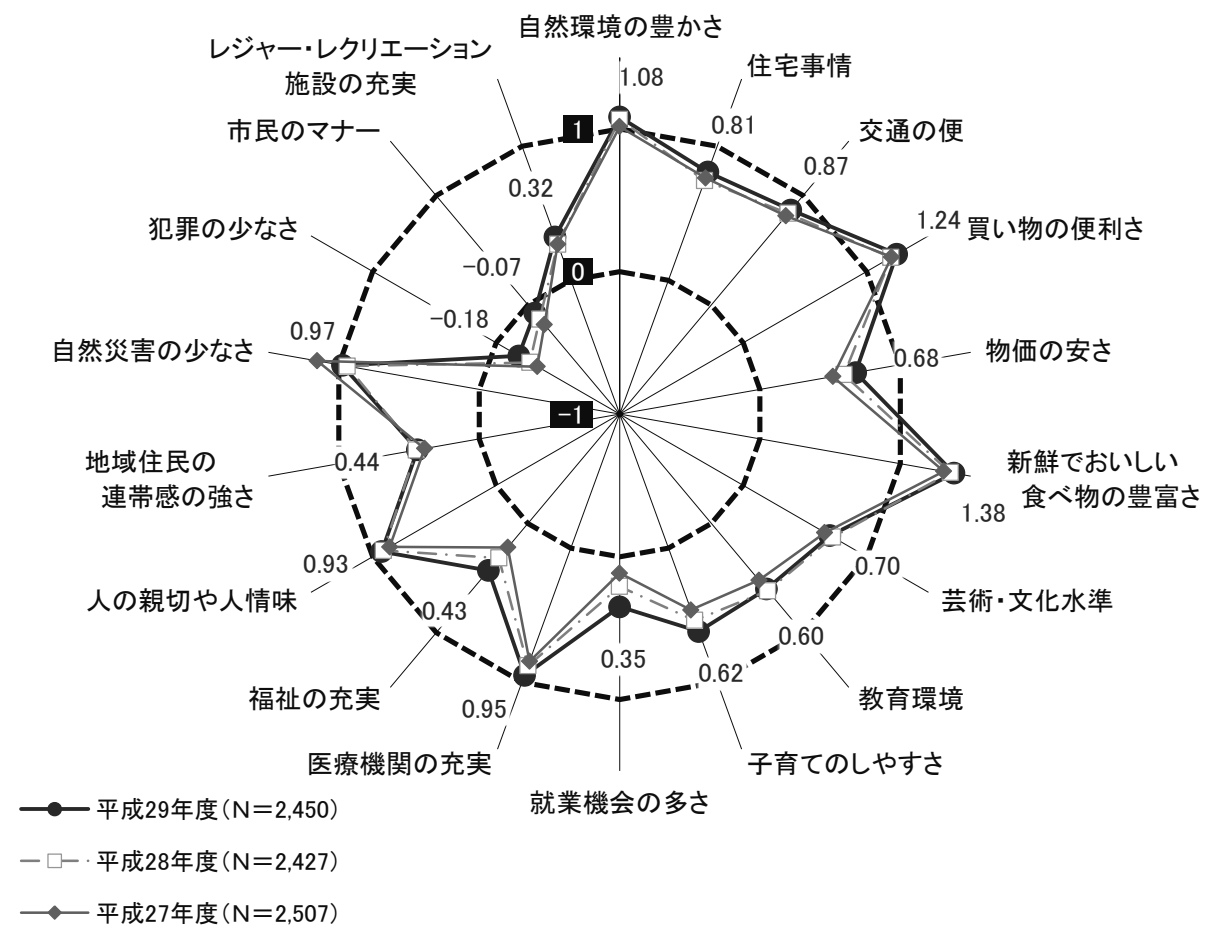


福岡市の都市環境等の満足度について、平均評定値*を過去の調査結果と比較すると、平成 29 年度は平成 28 年度と比べて、「芸術・文化水準」「教育環境」「地域住民の連帯感の強さ」以外の項目で平均評定値が 0.01 ポイント～0.14 ポイント高くなっている。また、「自然環境の豊かさ」「交通の便」「物価の安さ」「新鮮でおいしい食べ物の豊富さ」「子育てのしやすさ」「就業機会の多さ」「医療機関の充実」「福祉の充実」「人の親切や人情味」「犯罪の少なさ」「市民のマナー」については、平成 27 年度から年々ポイントが上がってきている。

さらに、「自然環境の豊かさ」「買い物の便利さ」「新鮮でおいしい食べ物の豊富さ」は、平成 27 年度～平成 29 年度のすべての年で平均評定値が 1.00 を超えている。「自然災害の少なさ」については、平成 27 年度までは平均評定値が 1.00 を超えていたが、平成 28 年度以降は平均評定値が 1.00 を下回っている。

一方、「犯罪の少なさ」「市民のマナー」は、平成 27 年度～平成 29 年度のすべての年で平均評定値がマイナスとなっているが、いずれも平成 27 年度から年々ポイントが上がり、不満度が低くなっている。

図表 福岡市の都市環境等に関する満足度（平均評定値）【過去の調査との比較】



※平均評定値について
 イメージ等、通常は数値的に評価することができないものを定量的に評価するため、「満足している」：+2点、「どちらかといえば満足」：+1点、「どちらかといえば不満」：-1点、「不満がある」：-2点と回答を得点化し、この平均を求めたもの。したがって、+2点に近いほど「肯定（好意的）」、逆に-2点に近いほど「否定（非好意的）」であることを示す。

図表 福岡市の都市環境等に関する満足度（平均評定値）【過去の調査との比較】

単位：点

	調査数	自然環境の豊かさ	住宅事情	交通の便	買い物の便利さ	物価の安さ	新鮮でおいしい食べ物の豊富さ	芸術・文化水準	教育環境	子育てのしやすさ
平成29年度	2,450	1.08	0.81	0.87	1.24	0.68	1.38	0.70	0.60	0.62
平成28年度	2,427	1.07	0.74	0.84	1.20	0.60	1.36	0.72	0.62	0.54
平成27年度	2,507	1.02	0.76	0.81	1.20	0.52	1.31	0.66	0.52	0.46

就業機会の多さ	医療機関の充実	福祉の充実	人の親切や人情味	地域住民の連帯感の強さ	自然災害の少なさ	犯罪の少なさ	市民のマナー	レジャー・レクリエーション施設の充実	
0.35	0.95	0.43	0.93	0.44	0.97	-0.18	-0.07	0.32	平成29年度
0.21	0.88	0.32	0.91	0.45	0.94	-0.27	-0.13	0.27	平成28年度
0.12	0.84	0.22	0.86	0.39	1.15	-0.33	-0.18	0.27	平成27年度

※網掛けは「0.00」から最も遠い数値に行っている。